

県内の交通事故の現状 (令和7年)

**鹿児島県警察本部交通部
交通企画課統計分析係**

- 2026. 1 -

目次

1	県内の交通事故の推移（過去10年間）	P2
2	四輪車乗車中の死傷者の状況について	P4
3	二輪車乗車中の死傷者の状況について	P5
4	自転車乗用中の死傷者の状況について	P7
4 - 1	自転車乗用中死傷者のヘルメット着用状況について	P8
5	歩行中死傷者の状況について	P9
5 - 1	歩行中死傷者の状況について（高齢者）	P12
6	子どもの事故の状況について	P14
7	反射材着用状況について	P19
8	高齢運転者事故（第1当一般原付以上）の状況について	P20
9	飲酒運転事故（第1当一般原付以上）の状況について	P24
10	外国人運転事故の状況について	P25
11	自転車関連交通事故について	P26

1 県内の交通事故の推移（過去10年間）

● 発生件数、死者、負傷者数は前年に比べ減少する。（図1）

● 状態別では、死者については歩行中が最も多い、死傷者は自動車乗車中が最も多い。（図2、図3）

● 高齢死者は、平成15年以降、23年連続で死者の過半数を占め、令和7年中の高齢死者は死者全体の約70.5%を占める。（図4）

● 第1当高齢運転者による人身事故の構成率は、過去10年間で緩やかに増加し、令和7年中の構成率は約33.9%を占め、交通事故の構成率は約44.2%を占める。（図5）

図1 発生件数、負傷者数、死者数の推移

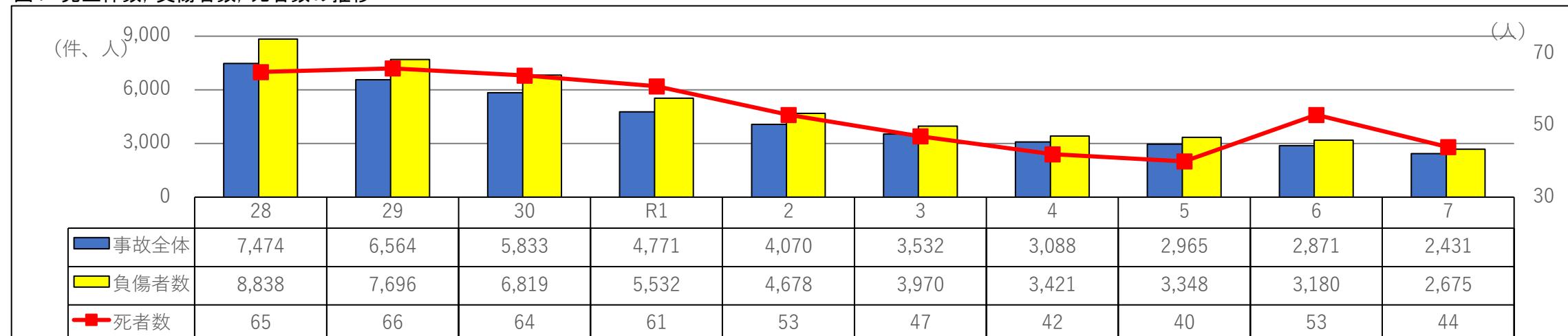


図2 状態別死者数(R7)

その他、1人、2.3%

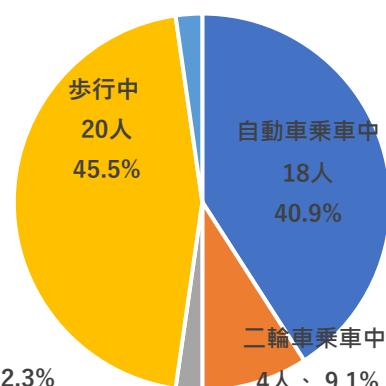


図3 状態別死傷者数(R7)

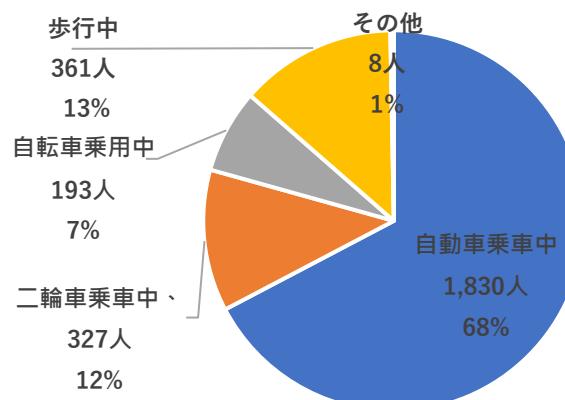


図4 死者全体に占める高齢死者の構成率の推移

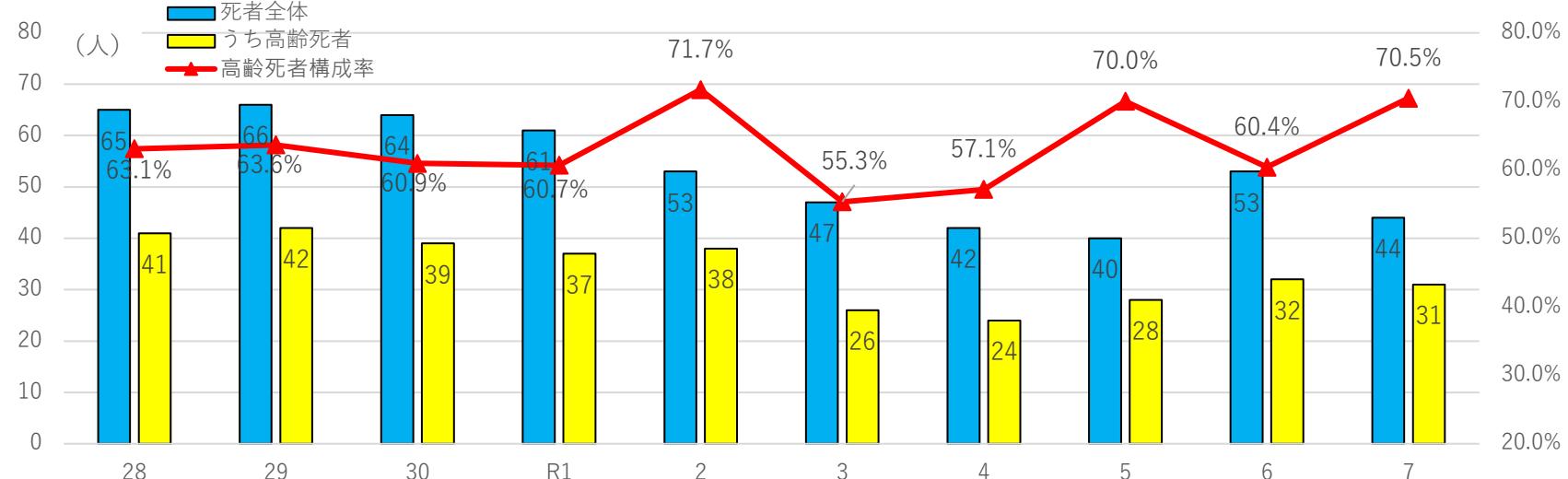
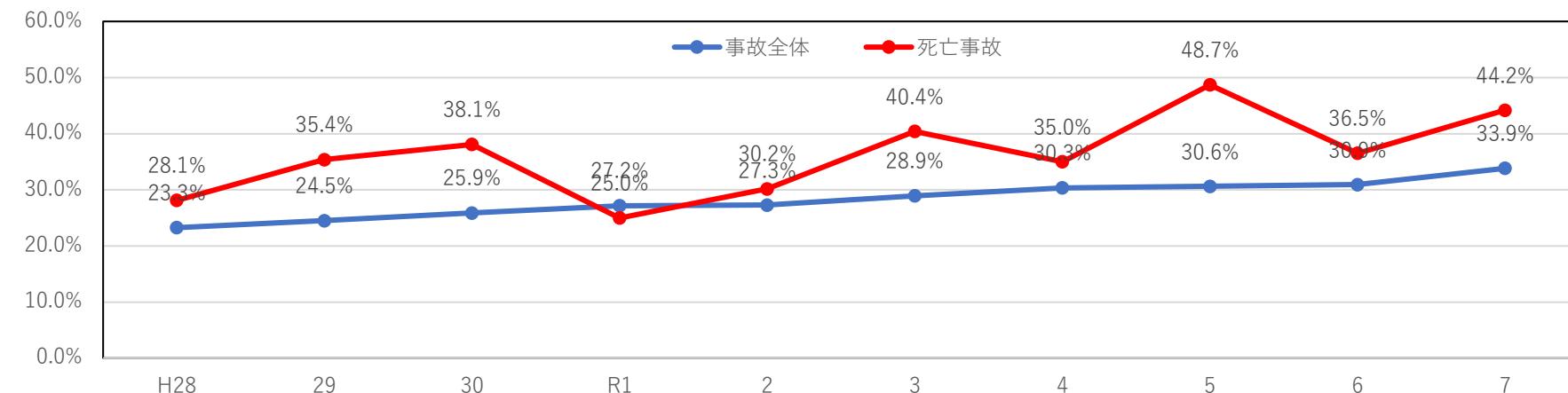


図5 第1当高齢運転者による構成率の推移(一般原付以上)



区分/年別	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
事故全体	7,474	6,564	5,833	4,771	4,070	3,532	3,088	2,965	2,871	2,431
うち高齢運転者	1,739	1,608	1,510	1,296	1,111	1,022	937	908	888	823
構成率	23.3%	24.5%	25.9%	27.2%	27.3%	28.9%	30.3%	30.6%	30.9%	33.9%
死亡事故	64	65	63	56	53	47	40	39	52	43
うち高齢運転者	18	23	24	14	16	19	14	19	19	19
構成率	28.1%	35.4%	38.1%	25.0%	30.2%	40.4%	35.0%	48.7%	36.5%	44.2%

2 四輪車乗車中の死傷者の状況について

死傷者数、死者数は前年より減少する。（図1）

年代別の死傷者は40歳代が最も多く、次いで30歳代、50歳代が多い。（図2）

時間帯別の死傷者は16～17時台が最も多く、次いで8～9時台が多い。（図3）

図1

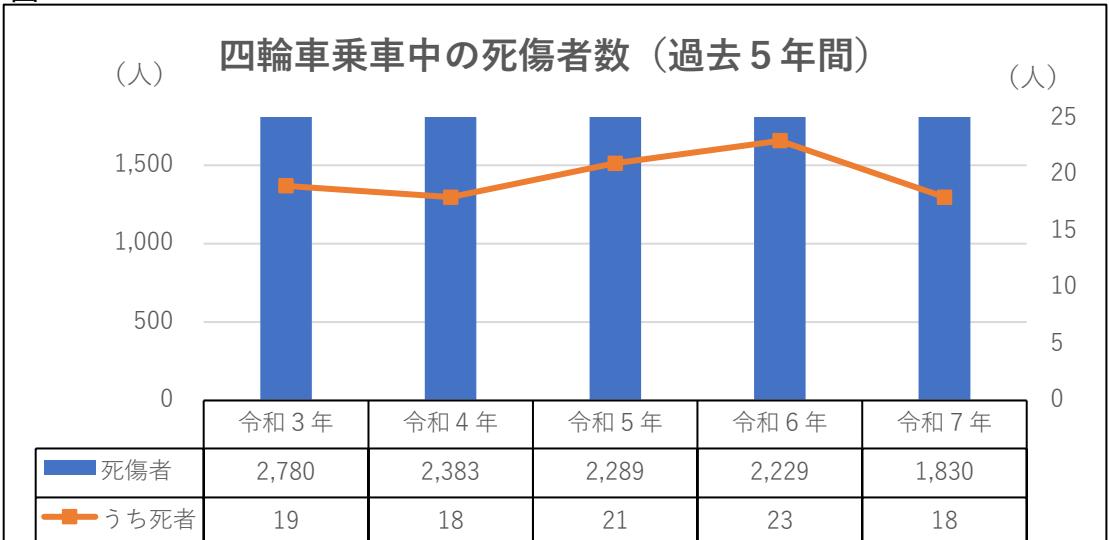


図2

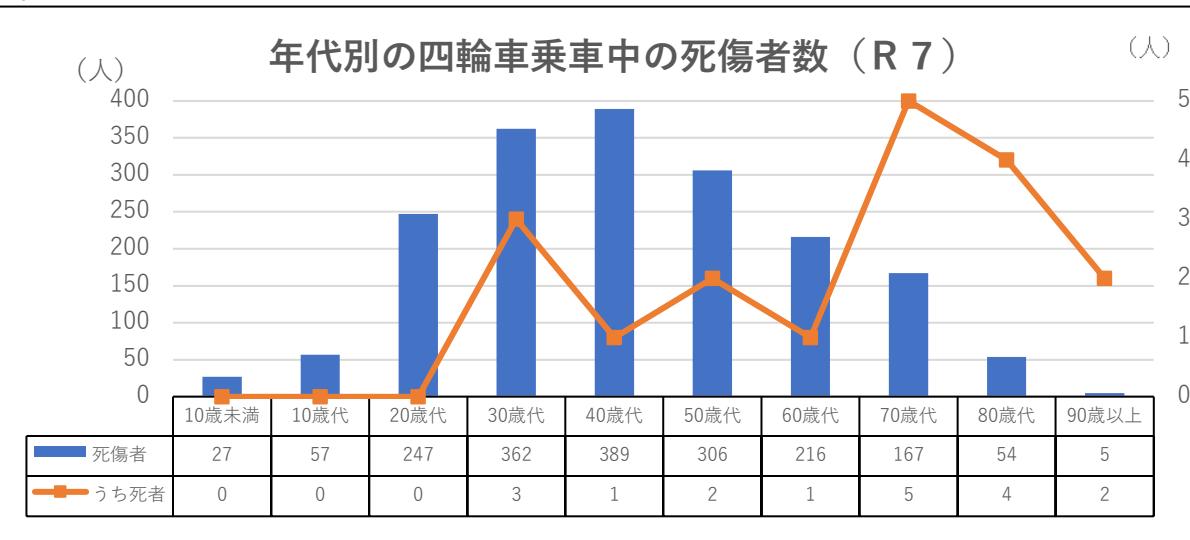
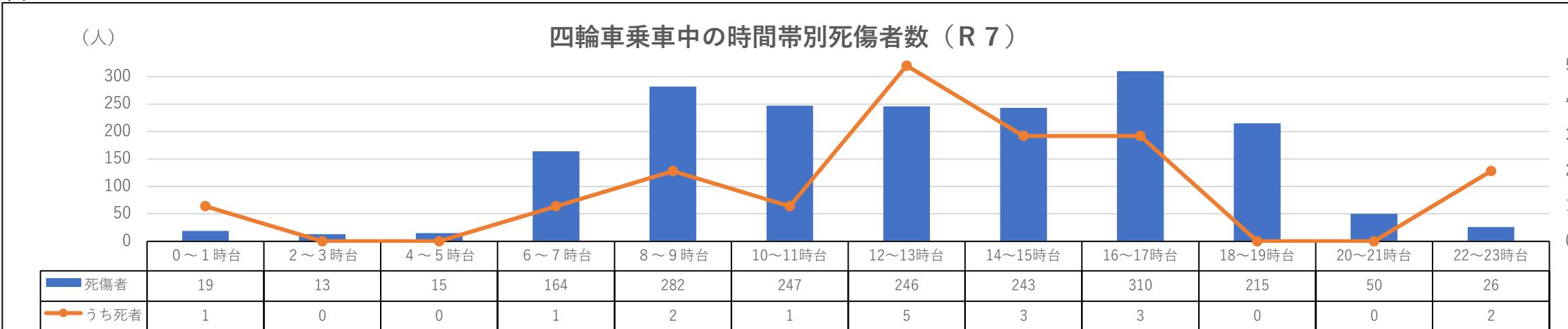


図3



3 二輪車乗車中の死傷者の状況について

死傷者数、死者数は過去5年で最小。（図1）

当事者別の死傷者は、一般原付が最も多く、次いで原付二種が多い。（図2）

年代別の死傷者は10歳代が最も多く、次いで20歳代、40歳代が多い。（図3）

二輪車関連事故の時間帯別発生件数は16～17時台が最も多く、次いで8～9時台、18～19時台の順で多い。（図4）

図1

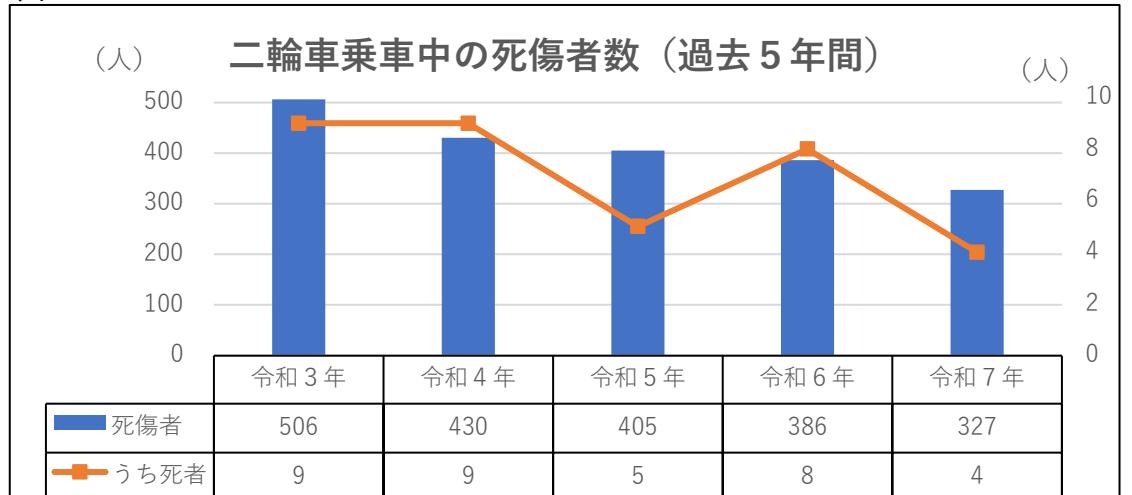


図2



図3

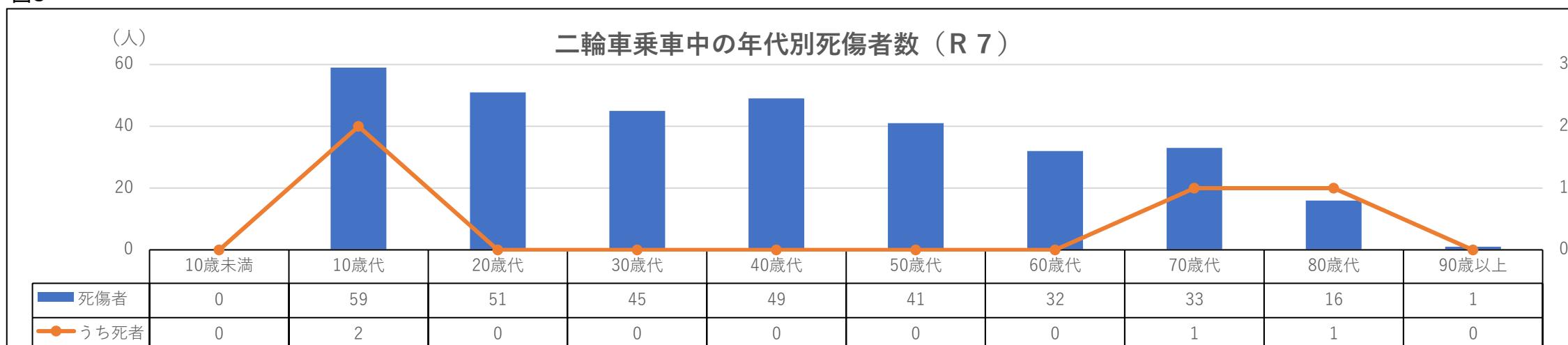
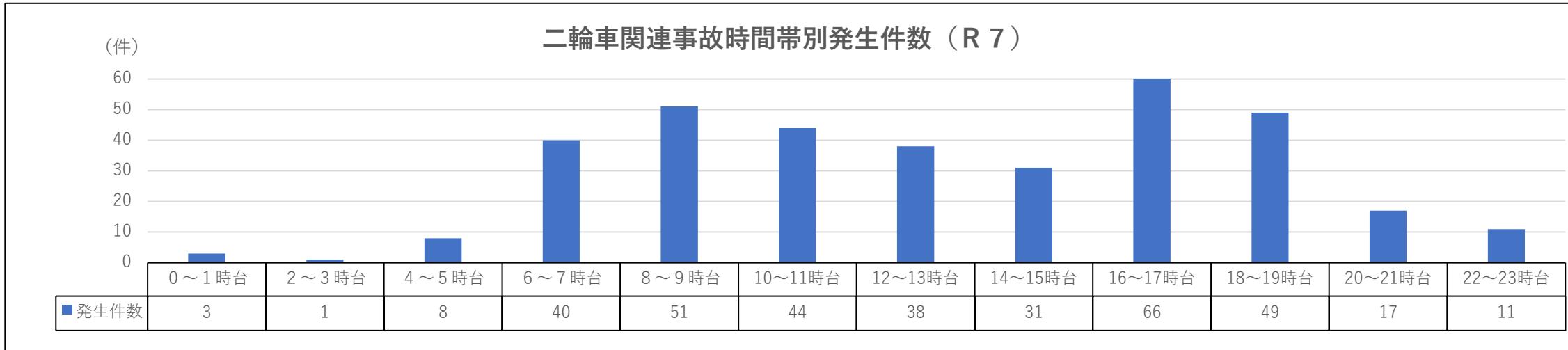


図4



4 自転車乗用中の死傷者の状況について

死傷者数は過去5年で最小。（図1）

年代別の死傷者は10歳代が最も多く、次いで20歳代が多い。（図2）

時間帯別の発生件数は16～17時台が最も多く、次いで6～7時台、12～13時台の順で多い。（図3）

図1

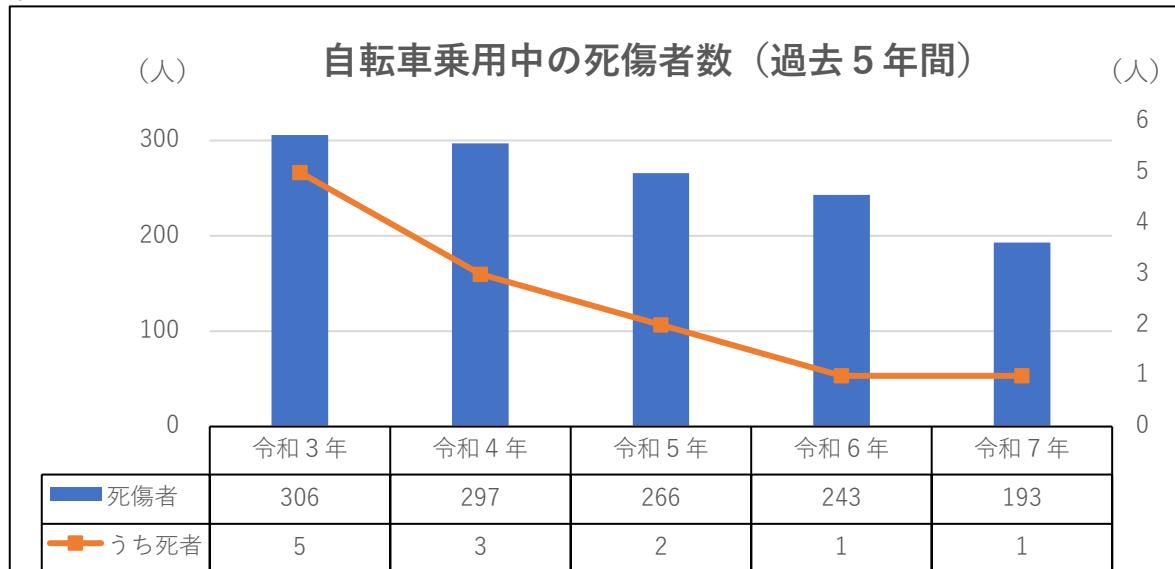


図2

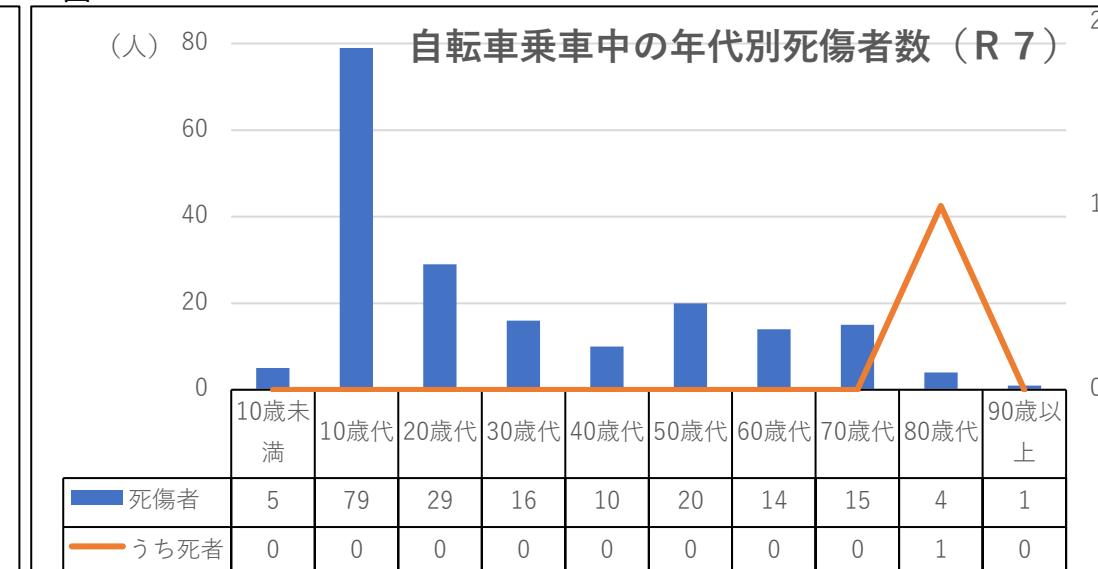
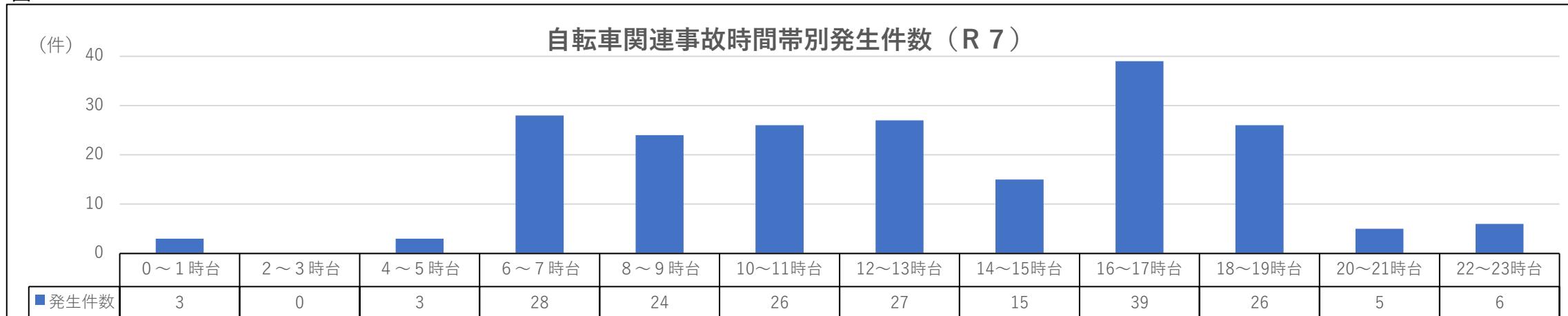


図3



4-1 自転車乗用中死傷者のヘルメット着用状況について

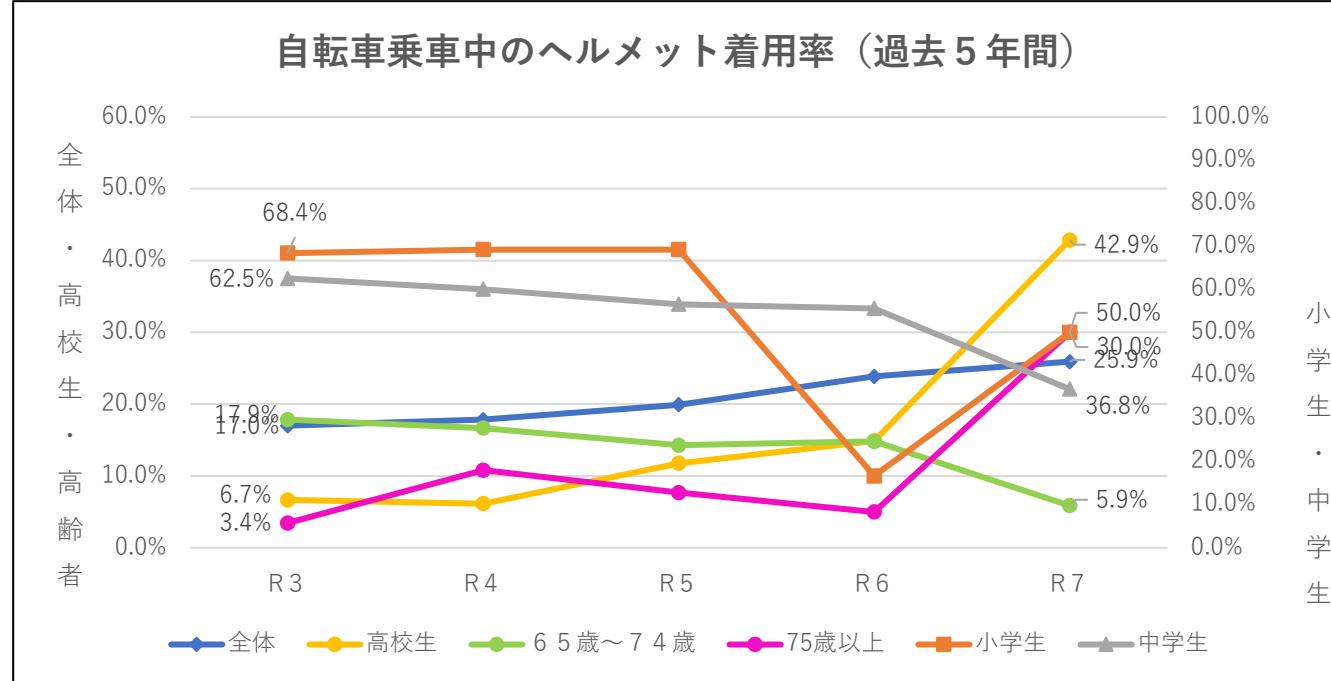
● 全体の着用率は25.9%で、前年より2.0%増加する。（図1、表1）

● 小学生のヘルメット着用率は50.0%で、前年より33.3%増加する。（図1、表1）

● 中学生のヘルメット着用率は36.8%で、前年より18.8%減少する。（図1、表1）

● 高校生のヘルメット着用率は42.9%で、前年より28.0%増加する。（図1、表1）

図1



	全体	小学生	中学生	高校生	65歳～74歳	75歳以上
R3	17.0%	68.4%	62.5%	6.7%	17.9%	3.4%
R4	17.8%	69.2%	60.0%	6.2%	16.7%	10.8%
R5	19.9%	69.2%	56.5%	11.8%	14.3%	7.7%
R6	23.9%	16.7%	55.6%	14.9%	14.8%	5.0%
R7	25.9%	50.0%	36.8%	42.9%	5.9%	30.0%

※「着用不明」は「非着用」として集計した。

年	死傷者	ヘルメット着用	着用率
R3	306	52	17.0%
R4	297	53	17.8%
R5	266	53	19.9%
R6	243	58	23.9%
R7	193	50	25.9%
小学生	死傷者	ヘルメット着用	着用率
R3	19	13	68.4%
R4	13	9	69.2%
R5	13	9	69.2%
R6	6	1	16.7%
R7	10	5	50.0%
中学生	死傷者	ヘルメット着用	着用率
R3	24	15	62.5%
R4	20	12	60.0%
R5	23	13	56.5%
R6	18	10	55.6%
R7	19	7	36.8%
高校生	死傷者	ヘルメット着用	着用率
R3	45	3	6.7%
R4	65	4	6.2%
R5	51	6	11.8%
R6	47	7	14.9%
R7	42	18	42.9%
65歳～74歳	死傷者	ヘルメット着用	着用率
R3	28	5	17.9%
R4	24	4	16.7%
R5	21	3	14.3%
R6	27	4	14.8%
R7	17	1	5.9%
75歳以上	死傷者	ヘルメット着用	着用率
R3	29	1	3.4%
R4	37	4	10.8%
R5	26	2	7.7%
R6	20	1	5.0%
R7	10	3	30.0%

5 歩行中死傷者の状況について

死傷者数、死者数はともに前年より減少する。（図1）

年代別の死傷者は、70歳代が最も多く、次いで80歳代が多い。（図2）

道路形状別の死傷者は、交差点が最も多く、路線別では市町村道、時間帯別では18～19時台が最も多い。（図3、4、5）

夜間の致死率は、昼間の2倍である。（図6）

横断方向別の死傷者は、昼間は左から右が多く、夜間は右から左が多い。（図9）

図1

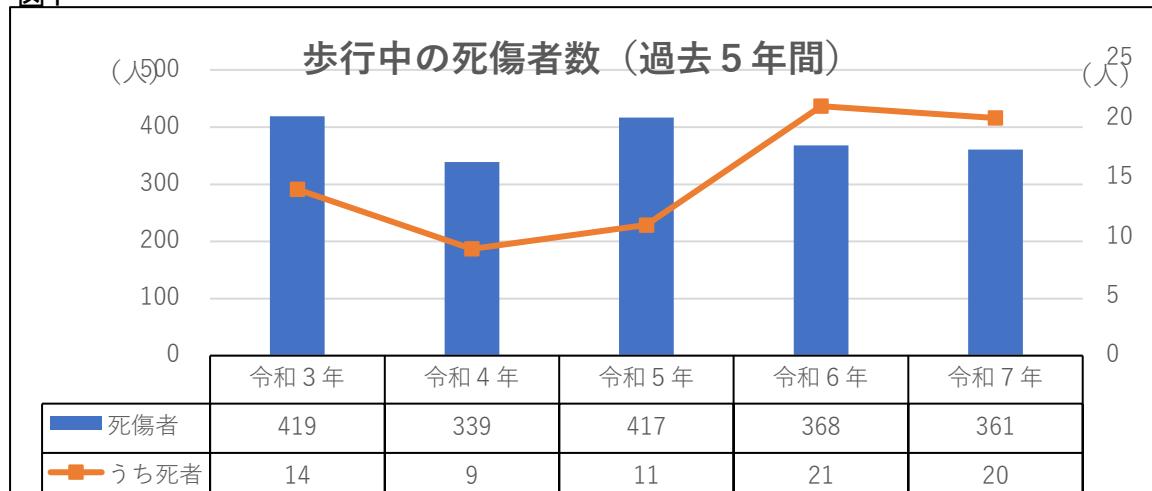


図2



図3

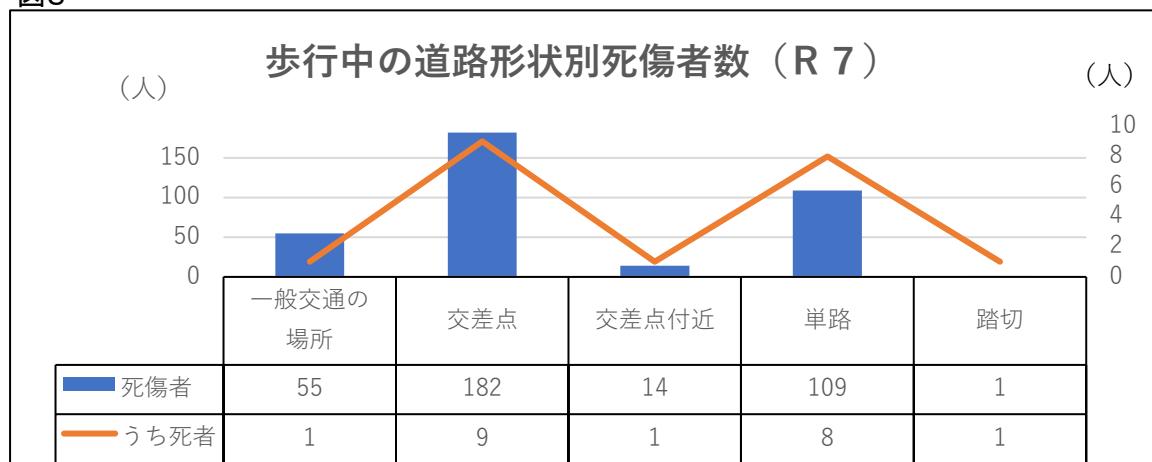


図4

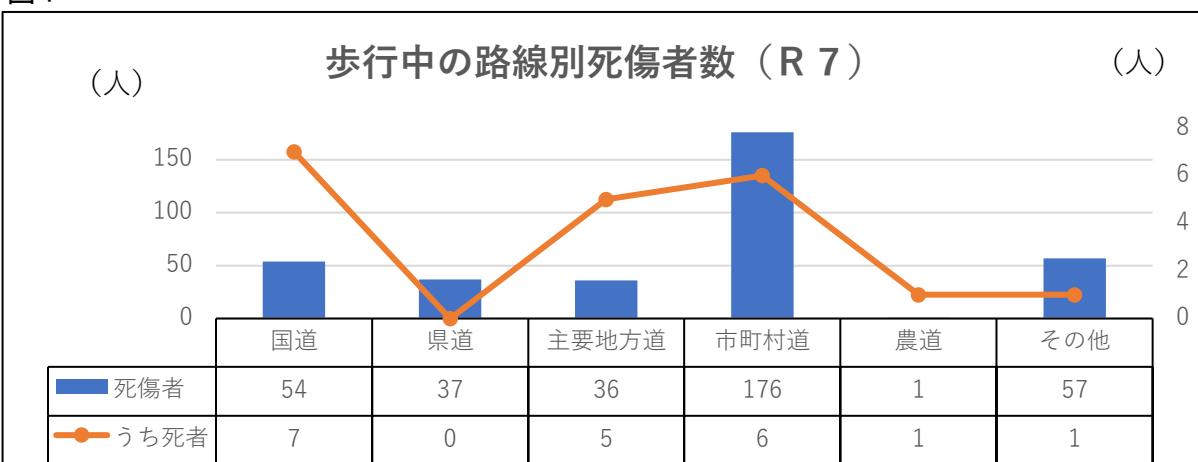


図5

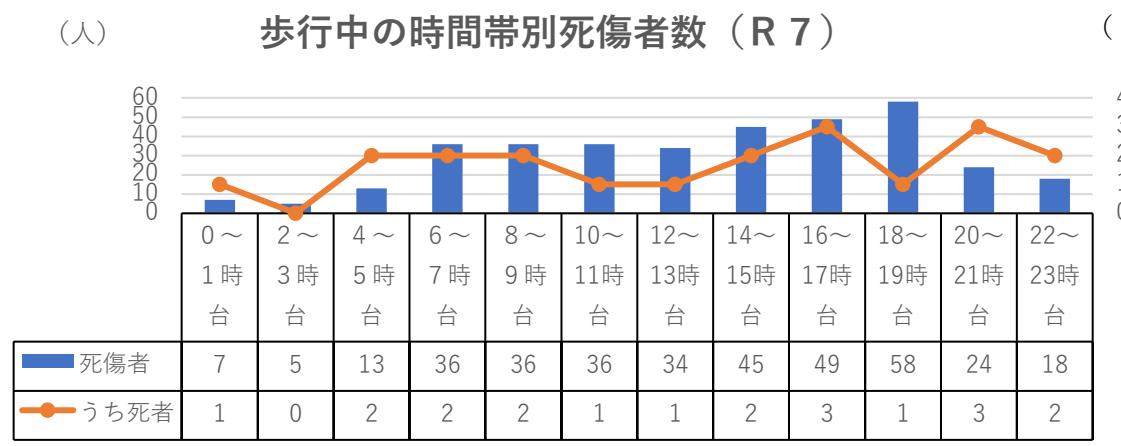


図6

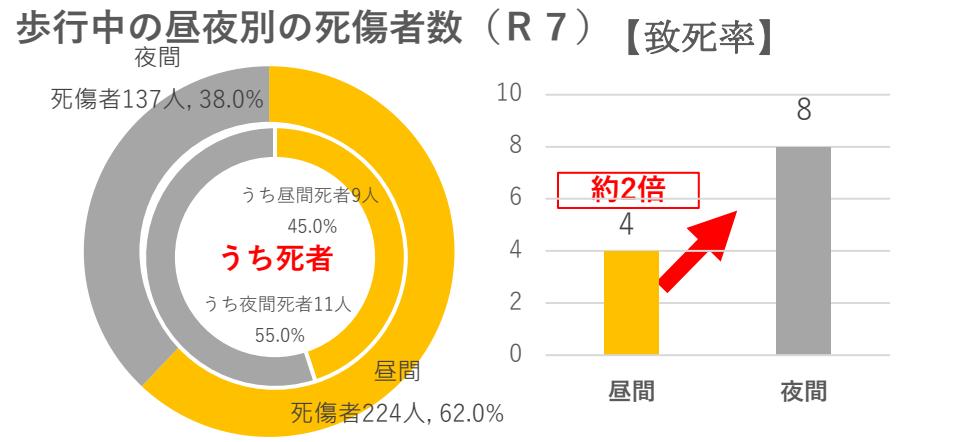


図7

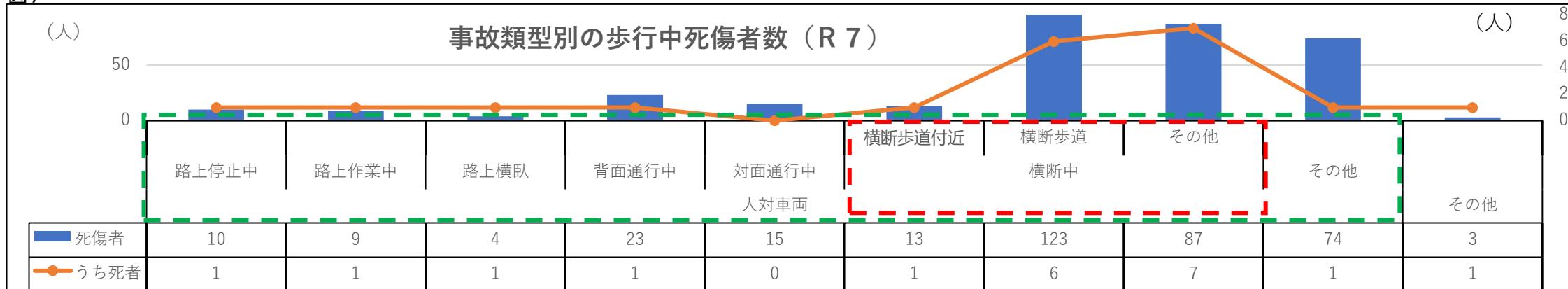
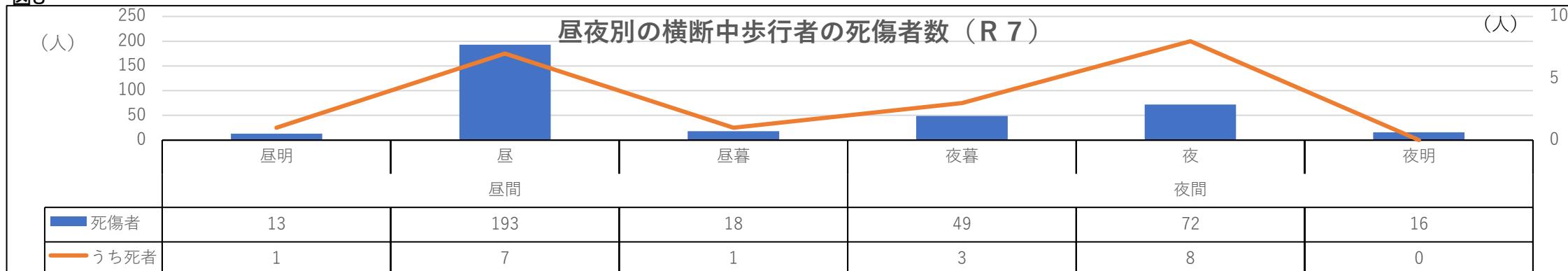


図8



注：「昼」とは、「昼明」と「昼暮」以外の「昼間」をいい、「昼明」とは、日の出の後1時間の間（払暁時間帯）、「昼暮」とは、日の入りの前1時間の間（薄暮時間帯）をいう
「夜」とは、「夜暮」と「夜明」以外の「夜間」をいい、「夜暮」とは、日の入りの後1時間の間（薄暮時間帯）を「夜明」とは、日の出の前1時間の間（払暁時間帯）をいう。

図9

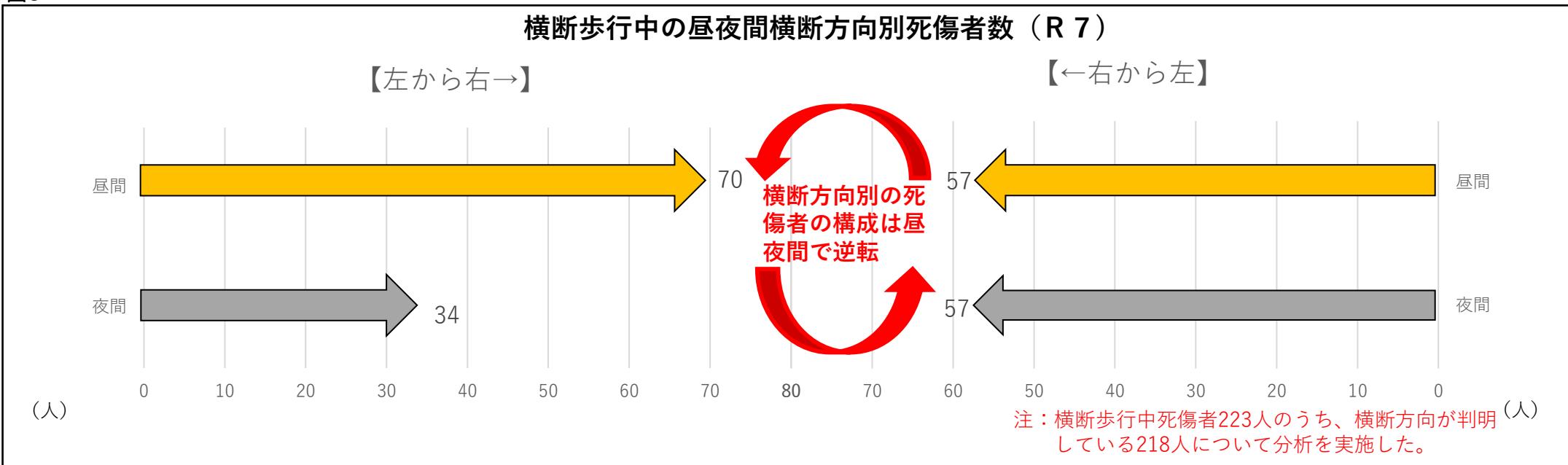
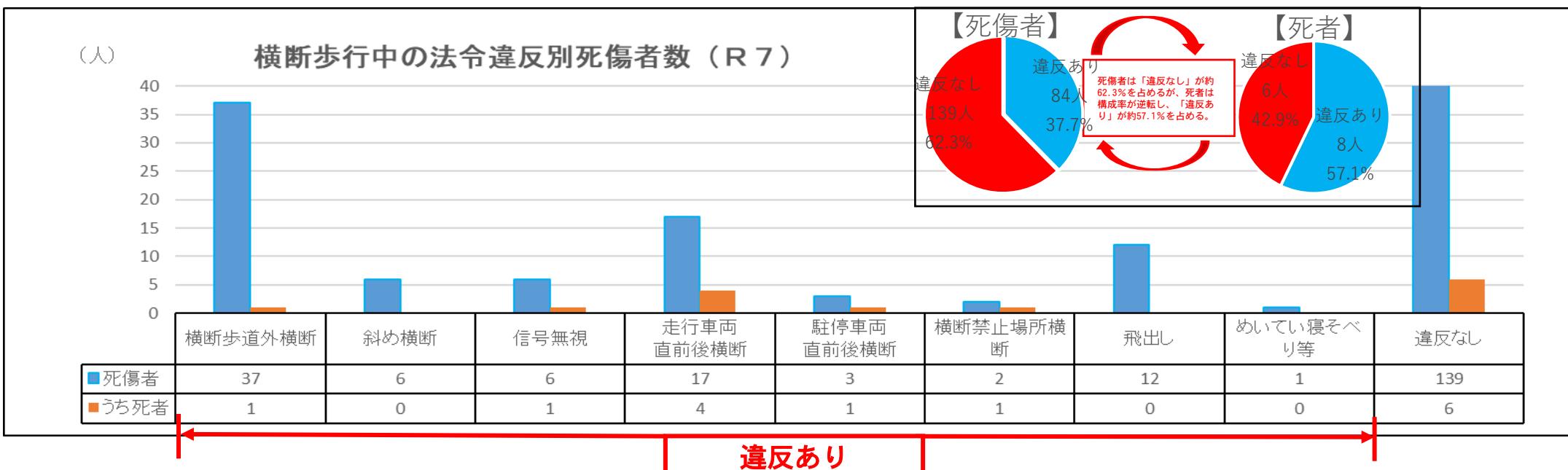


図10



5-1 歩行中死傷者の状況について（高齢者）

歩行中死者に占める割合は前年より増加し、**高水準を推移**している。（図1）

死傷者数は前年より**減少**したが、死者数は前年より**増加**する。（図2）

過去5年間の時間帯別の死傷者は、**18～19時台**が最も多く、次いで**16～17時台、6～7時台**の順に多い。（図3）

過去5年間の事故類型別の死者は、横断歩行中が全体の**約71.2%**を占める。（図4）

過去5年間の横断方向別の死者は、**右から左**が多い。（図5）

図1

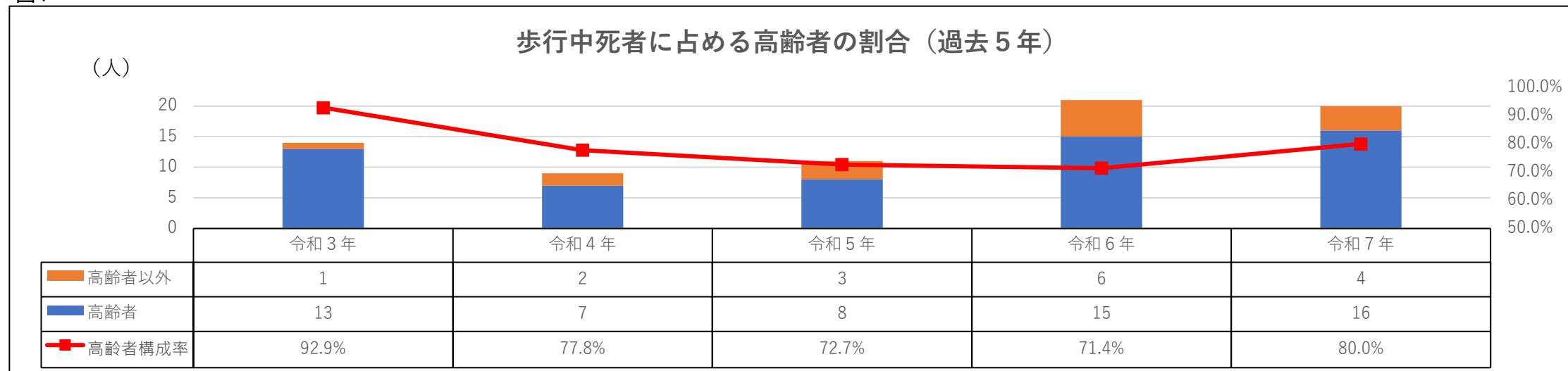


図2

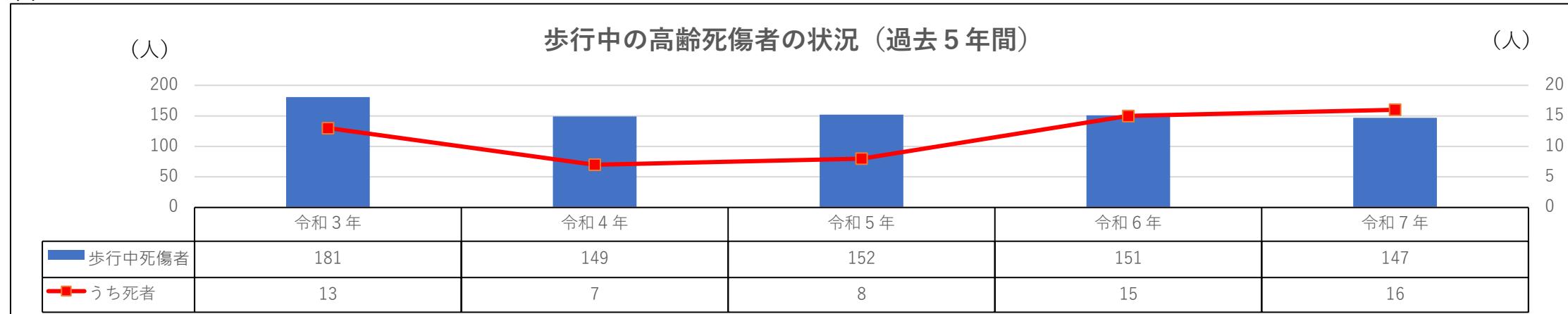


図3

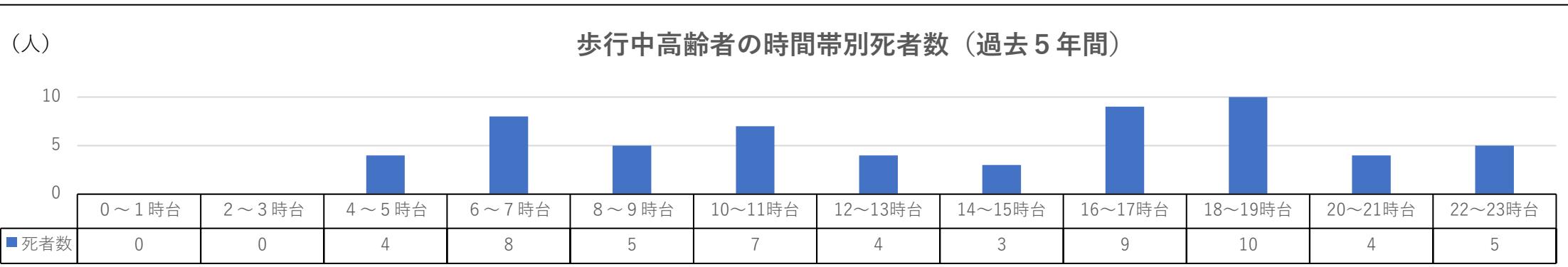


図4

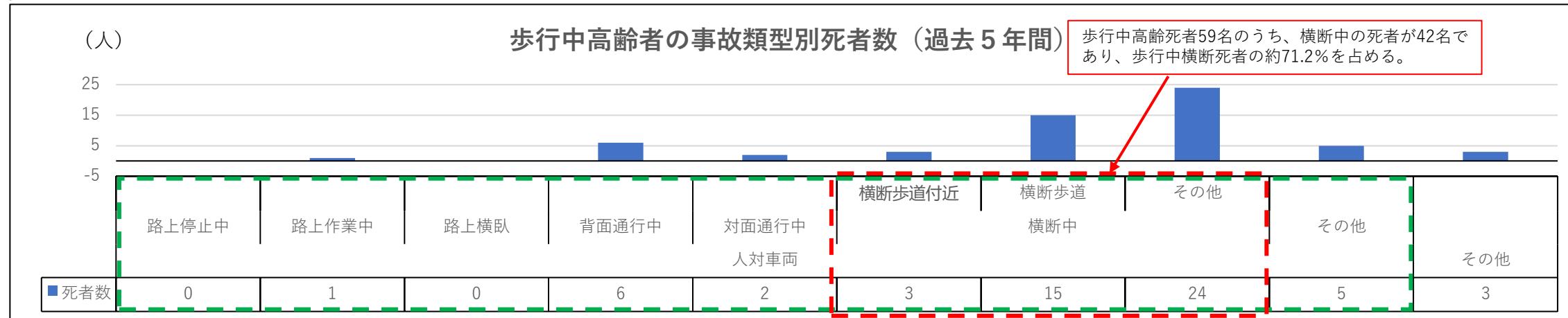
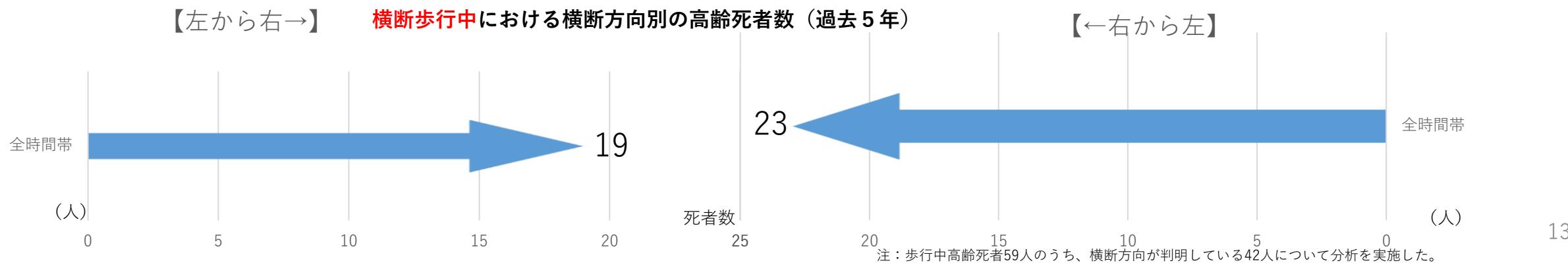


図5



6 こどもの事故の状況について

死者数は前年と比べ減少し、死傷者数は増加する。（図1）

年代別の死傷者は、小学生が多い。（図2）

時間帯別の死傷者は、16～17時台が最も多く、次いで14～15時台が多い。（図3）

状態別の死傷者は、歩行者等と自動車同乗中が53人で同数である。（図4）

子どもの歩行中死傷者のうち、横断歩行中死傷者が約71.7%を占める。（図8）

横断歩行中の子どもの死傷者のうち、小学1～3年生が約60.5%を占める。（図9）

図1

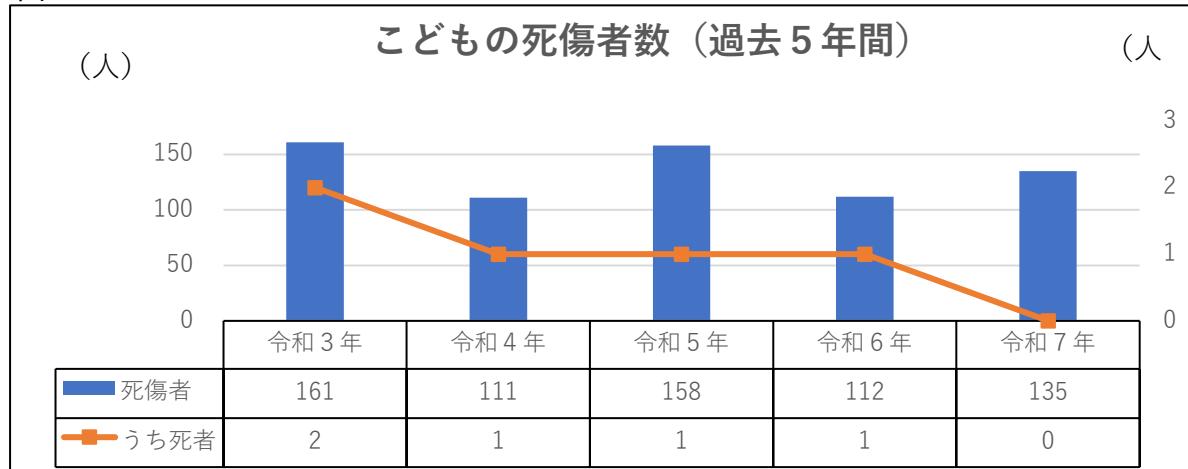


図2

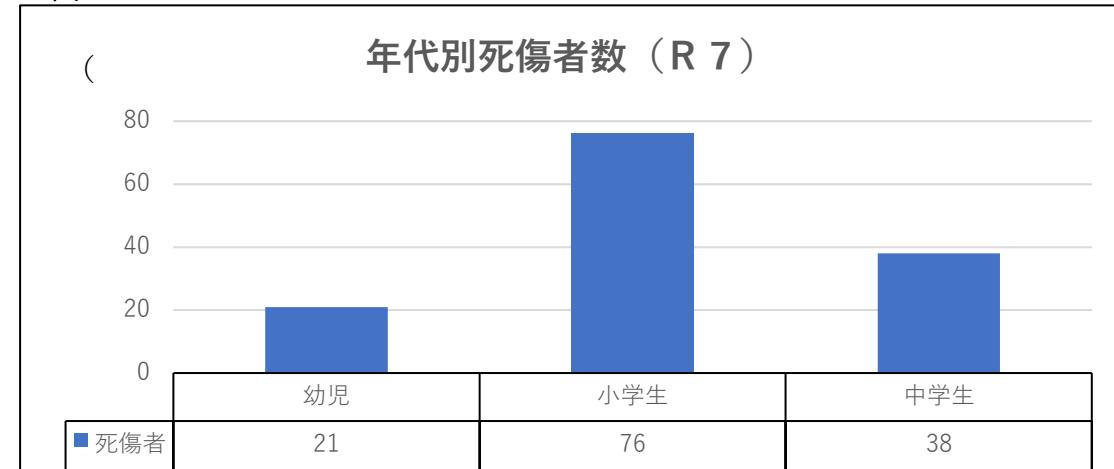


図3

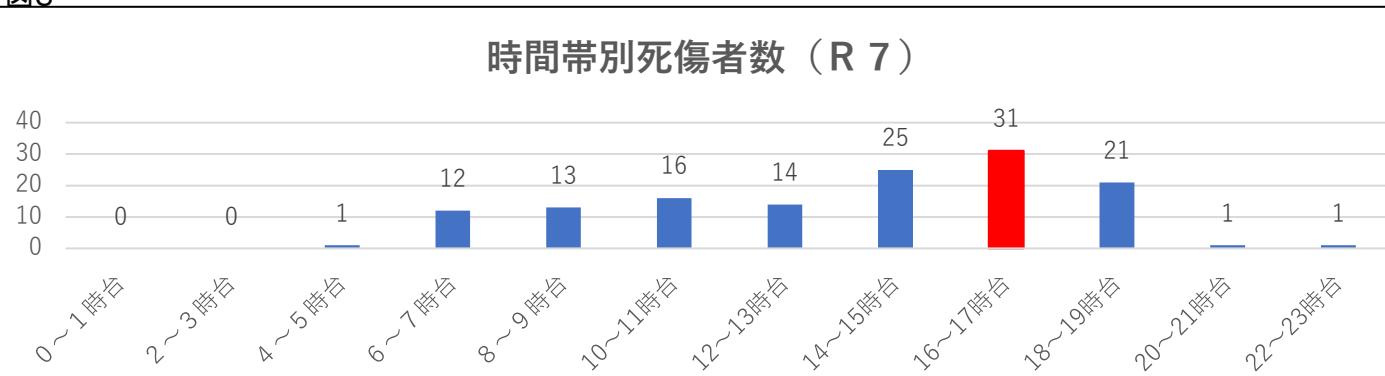


図4

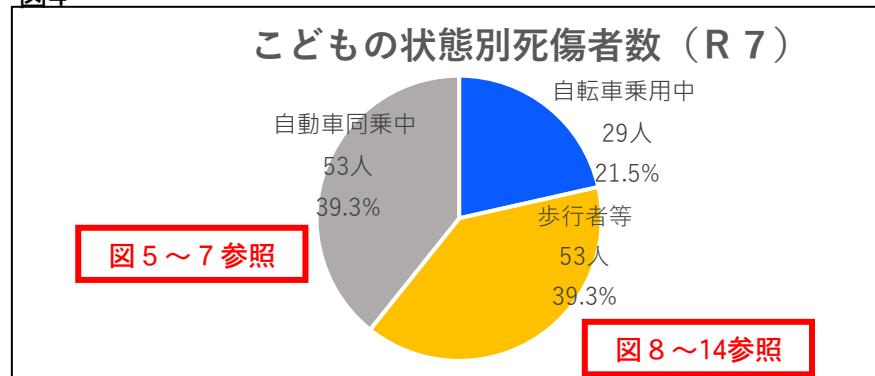


図5

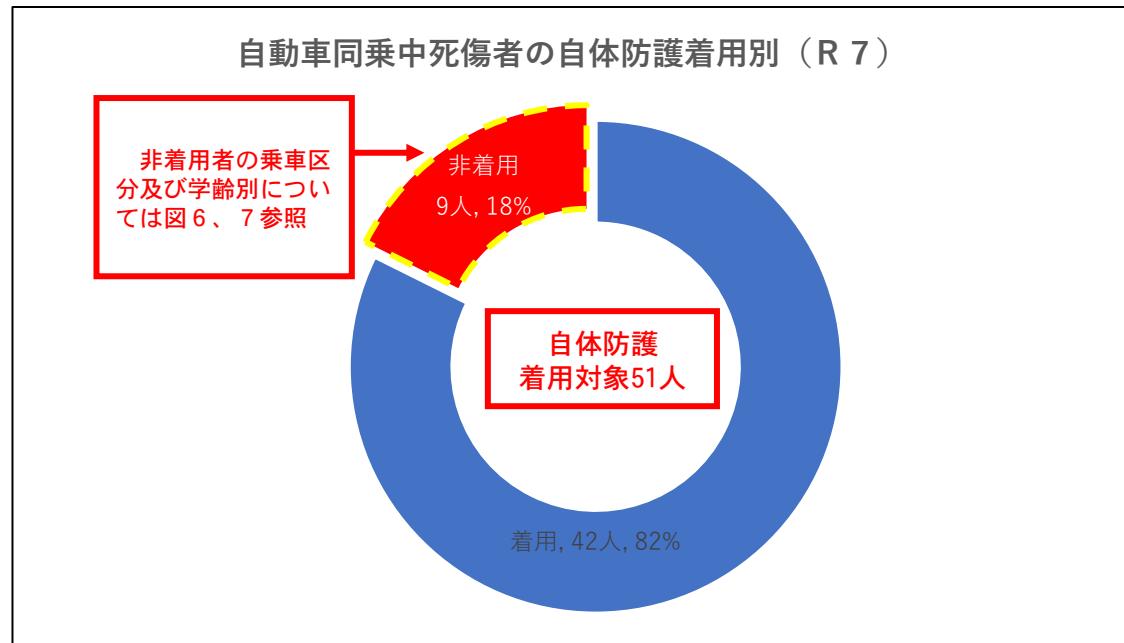


図6

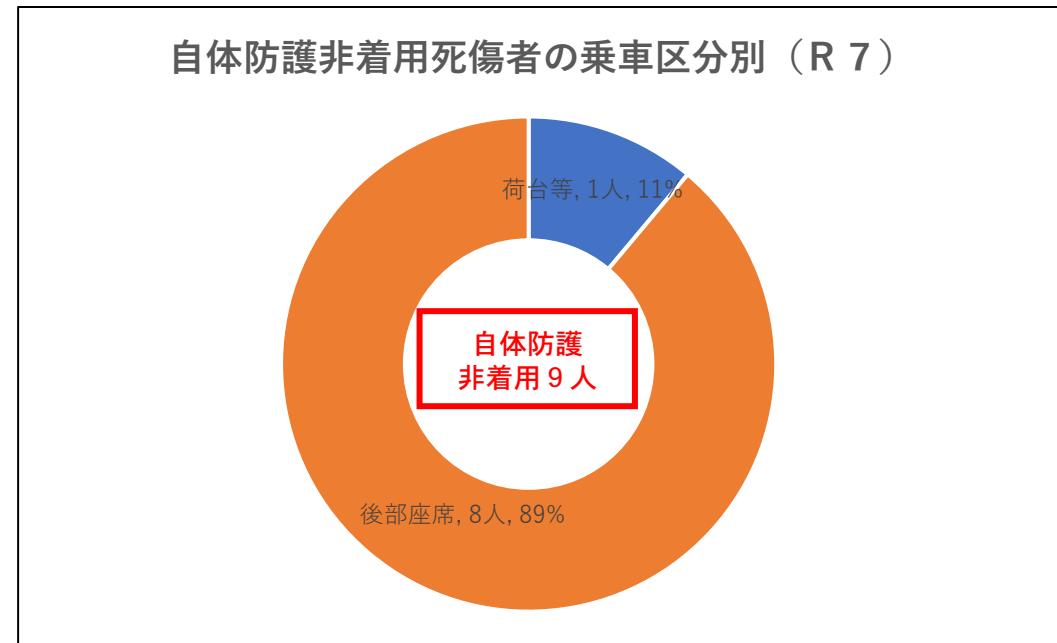


図7

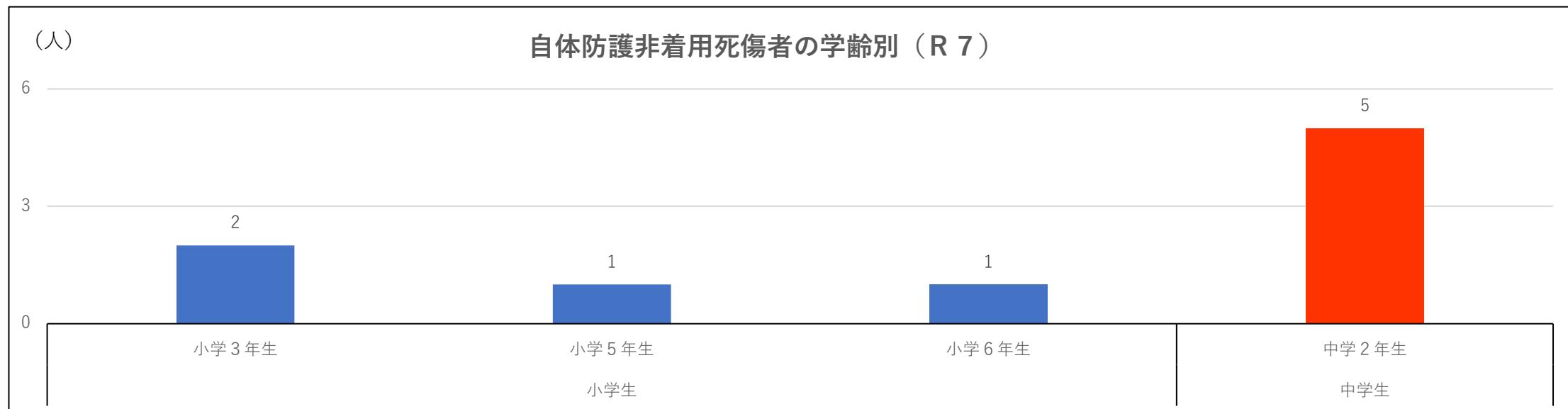


図8

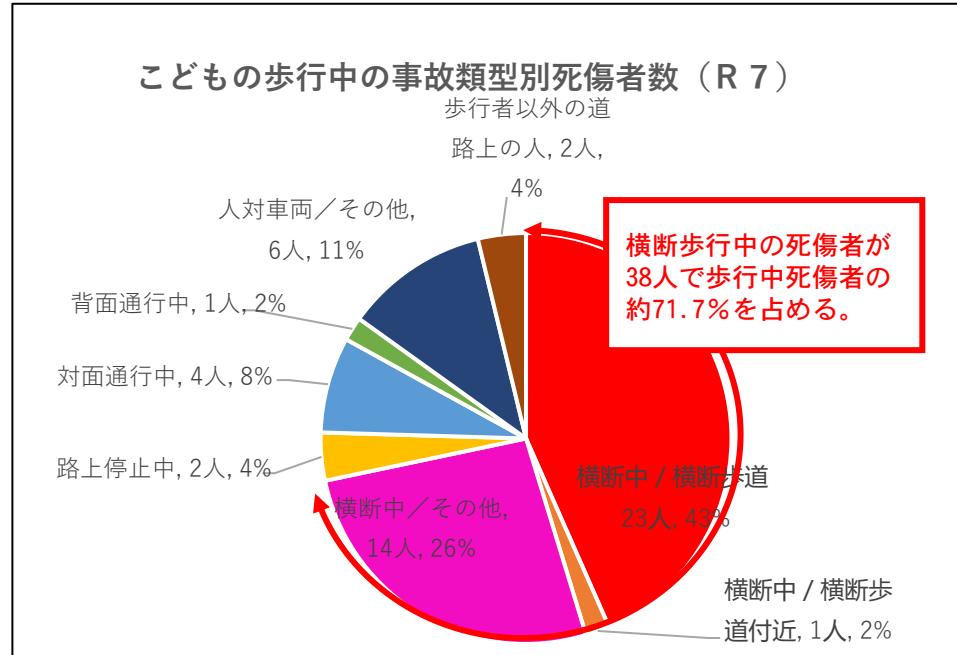


図9

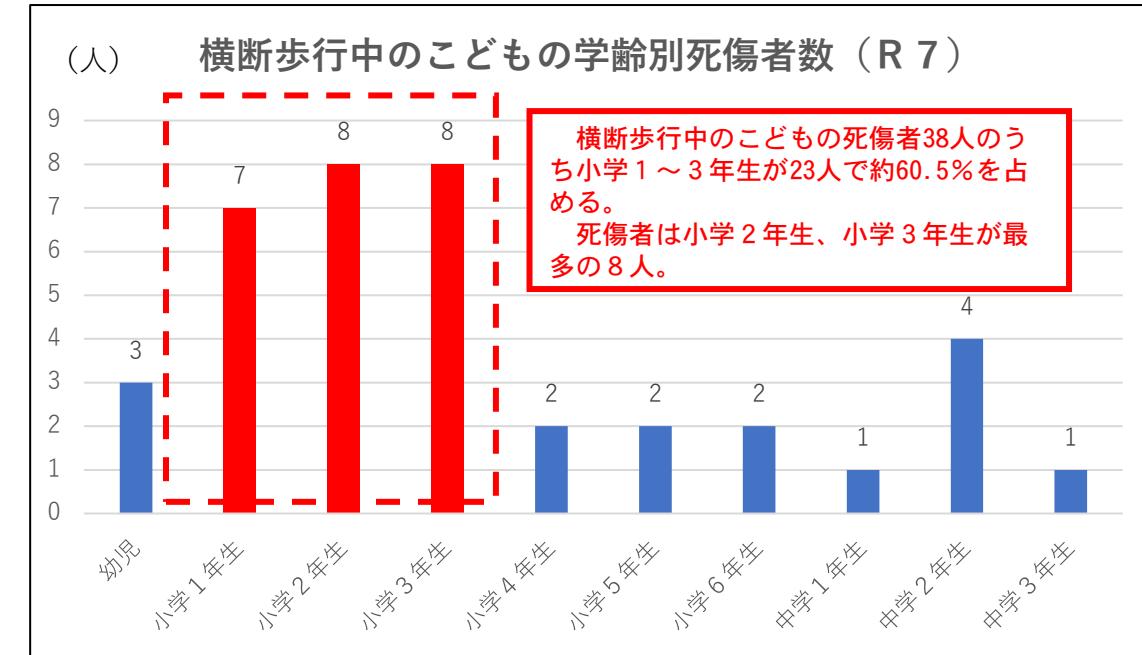


図10

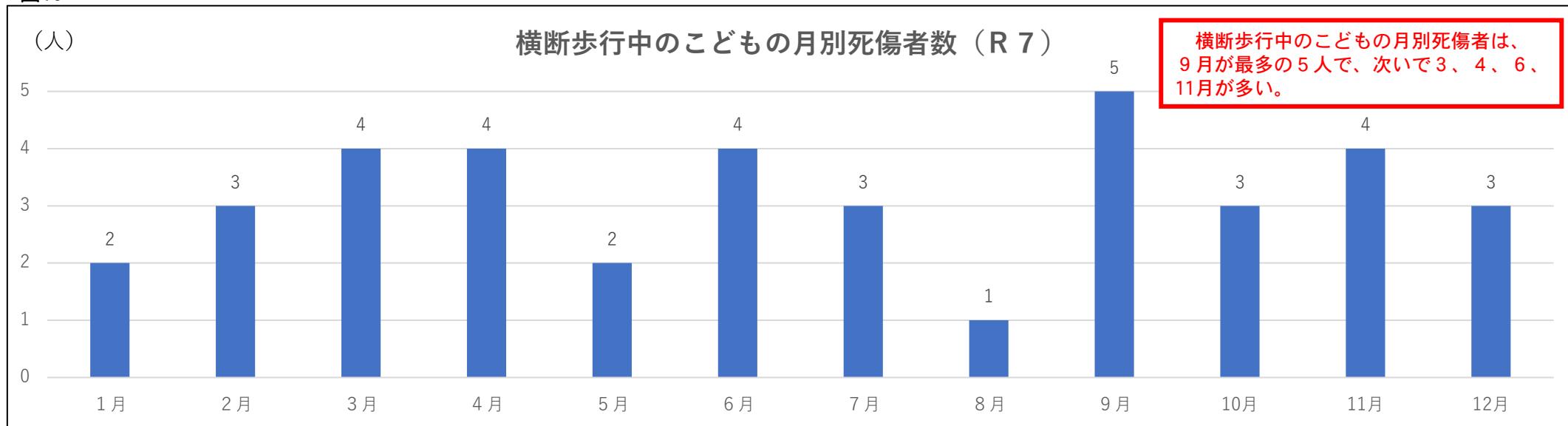


図11

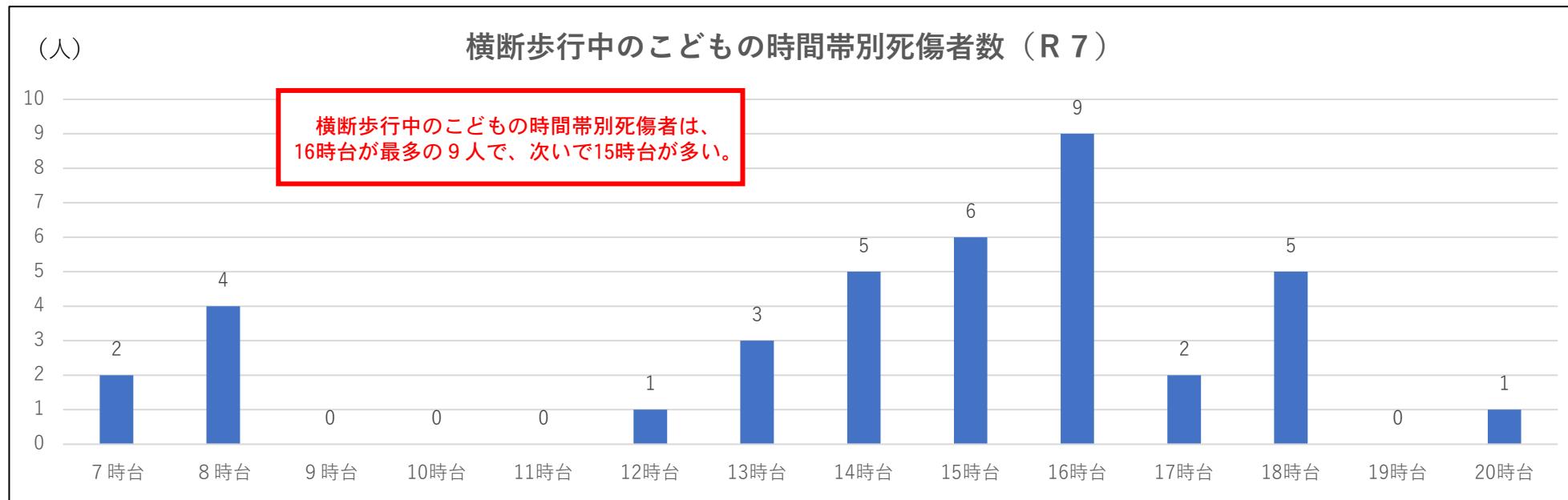


図12

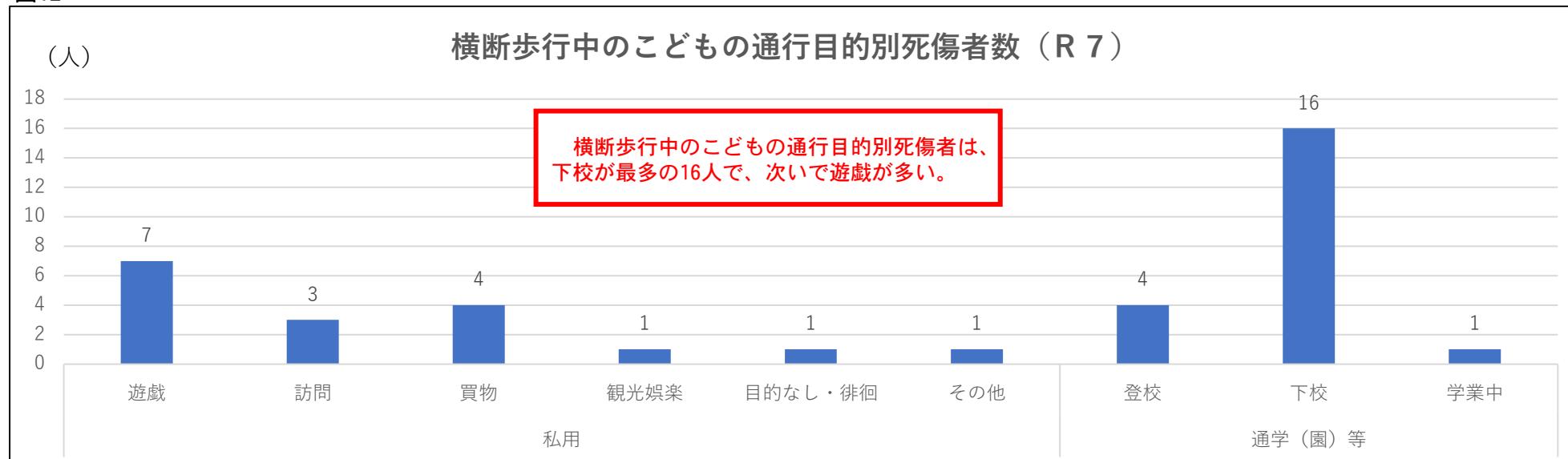
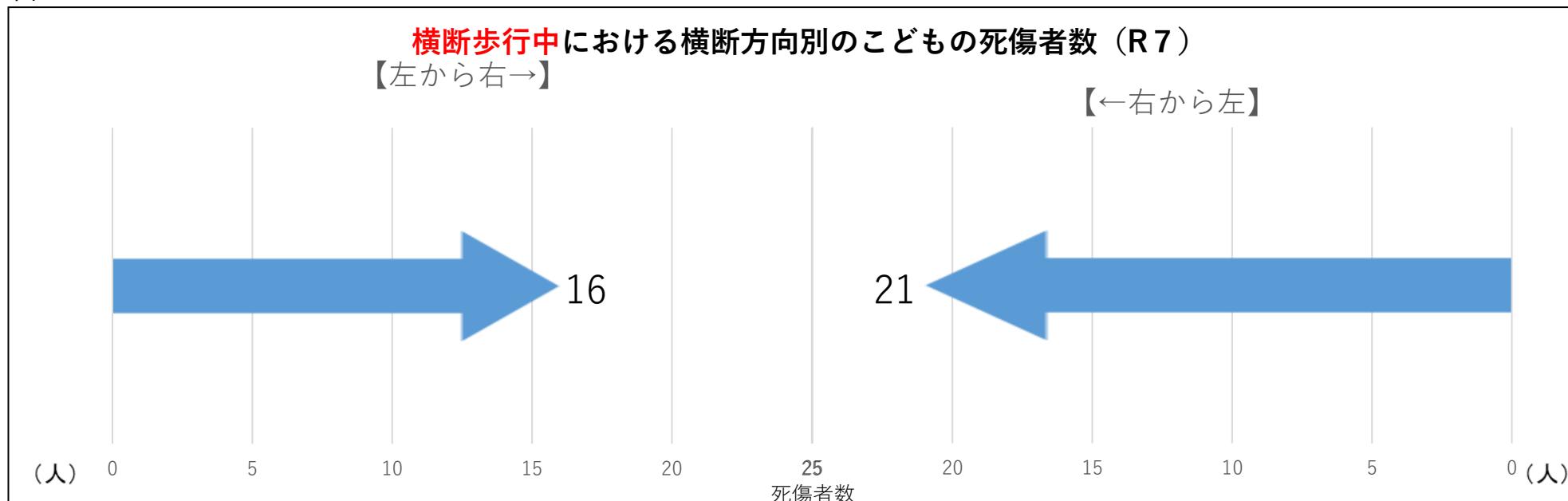


図13



図14



7 反射材着用状況について

● 夜間歩行中の死傷者全体の約94.2%が反射材非着用である。（図1、表1）

● 全体、高齢者ともに非着用の割合は、前年に比べ減少する。（図1、表1、2）

図1

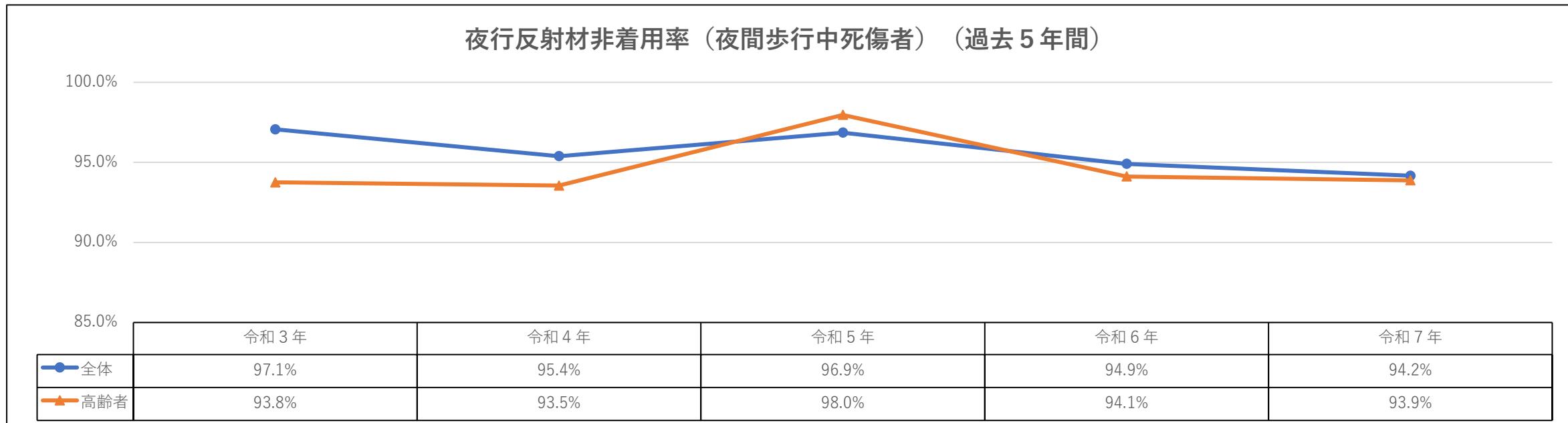


表1 夜間歩行中死傷者（全体）

全体	死傷者総数	反射材あり	反射材なし	非着用率
R3	136	4	132	97.1%
R4	130	6	124	95.4%
R5	159	5	154	96.9%
R6	157	8	149	94.9%
R7	137	8	129	94.2%

表2 夜間歩行中死傷者（高齢者）

高齢者	死傷者総数	反射材あり	反射材なし	非着用率
R3	48	3	45	93.8%
R4	62	4	58	93.5%
R5	49	1	48	98.0%
R6	51	3	48	94.1%
R7	49	3	46	93.9%

8 高齢運転者事故（第1当一般原付以上）の状況について

年齢層別の第1当事故件数は、前年より70～74歳、75～79歳の年齢層で増加し、他の年齢層は減少する。（図1）

年齢層別の事故全体に占める構成率は、前年より65～69歳、70～74歳、75～79歳で増加し、80歳以上の年齢層は減少する。（図2）

高齢運転者（第1当一般原付以上）による交通死亡事故は19件で、交通死亡事故全体の約47.5%を占める。（図3）

高齢運転者（第1当一般原付以上）による交通死亡事故の法令違反別（過去5年間）では、操作不適が最も多く、次いで前方不注意となっている。（図4）

図1

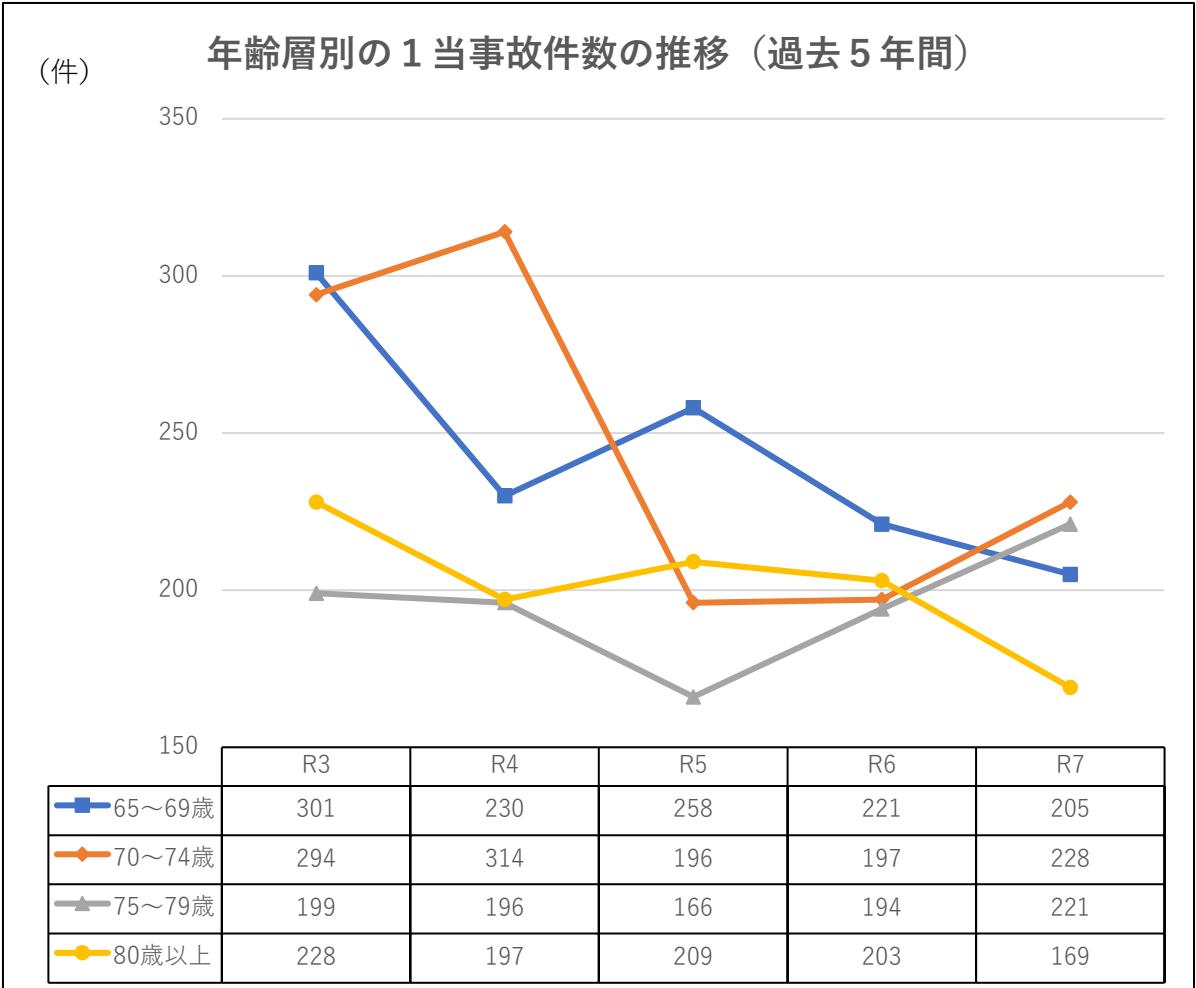


図2

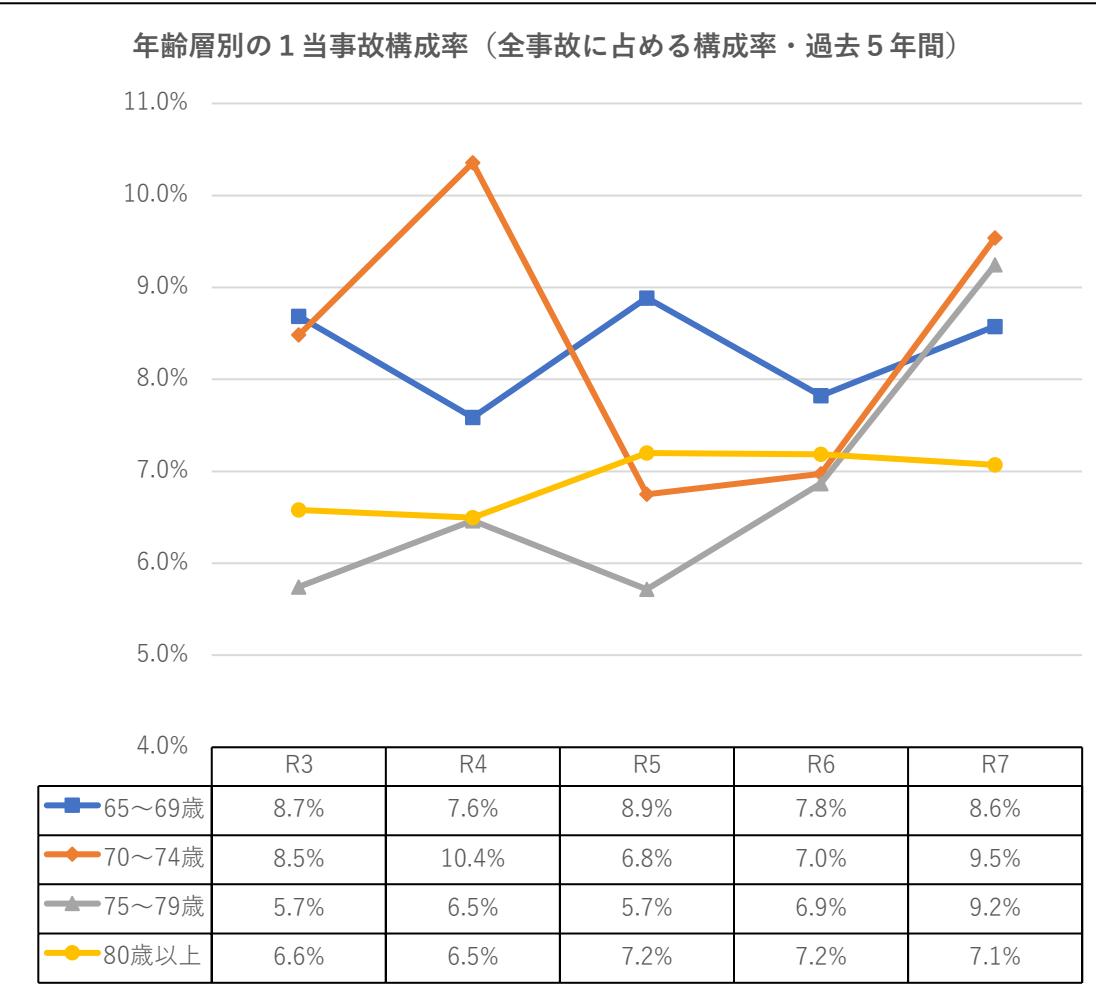


図3

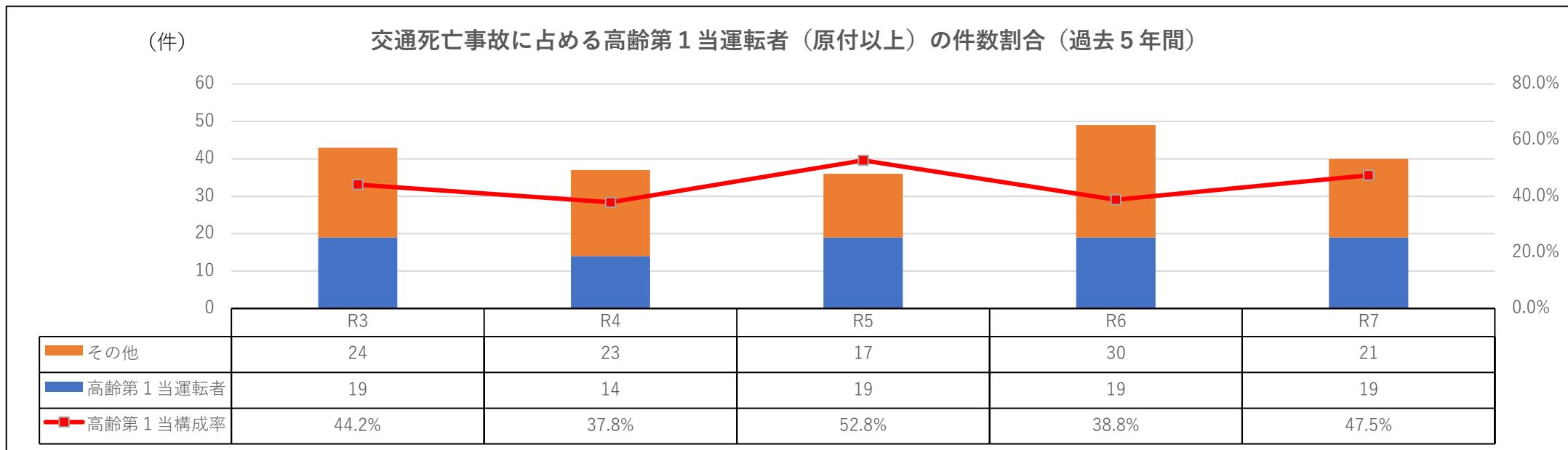


図4

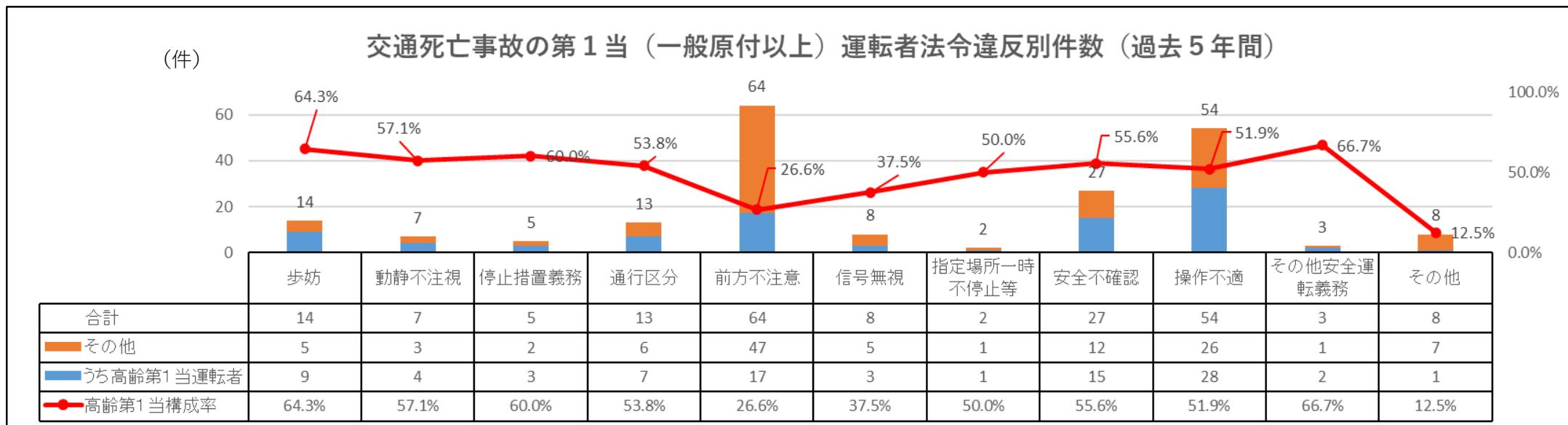


図5

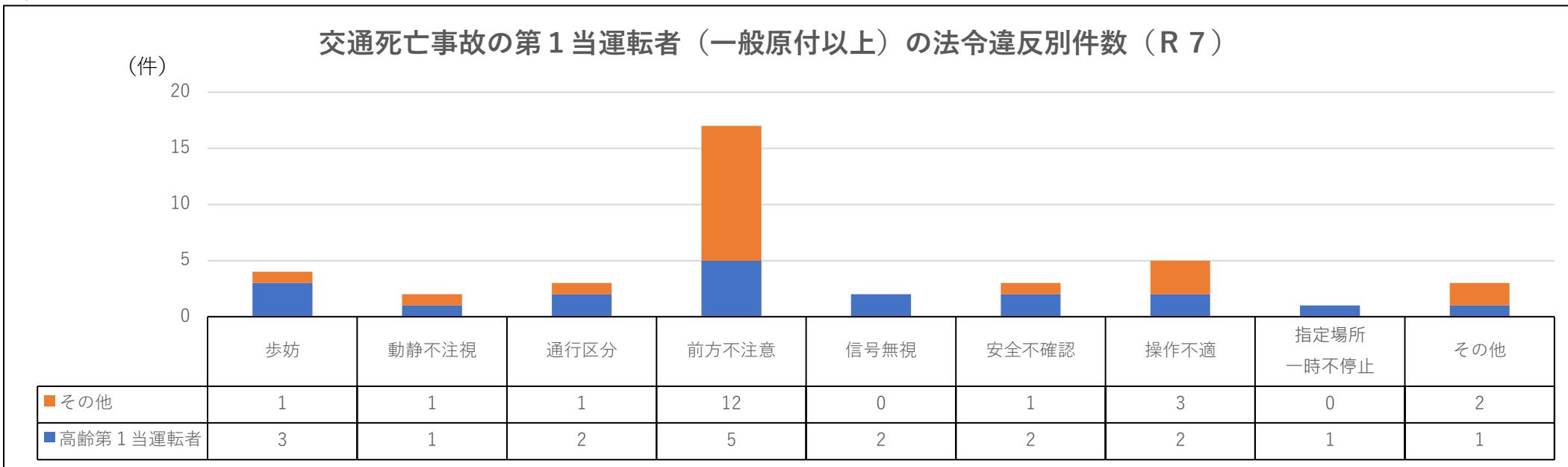


図6

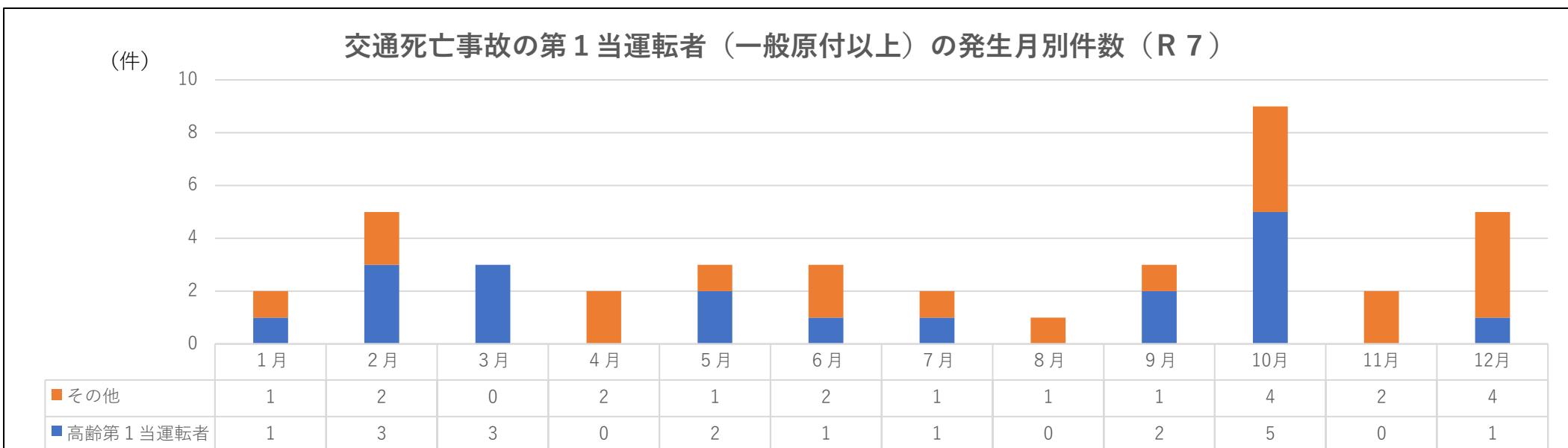


図7

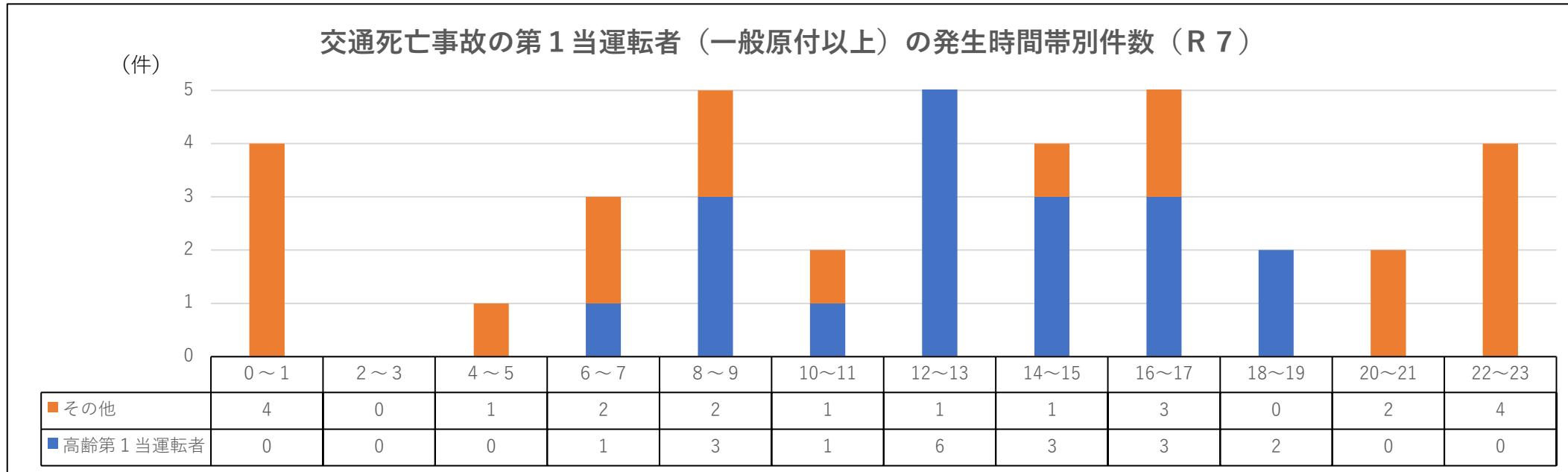
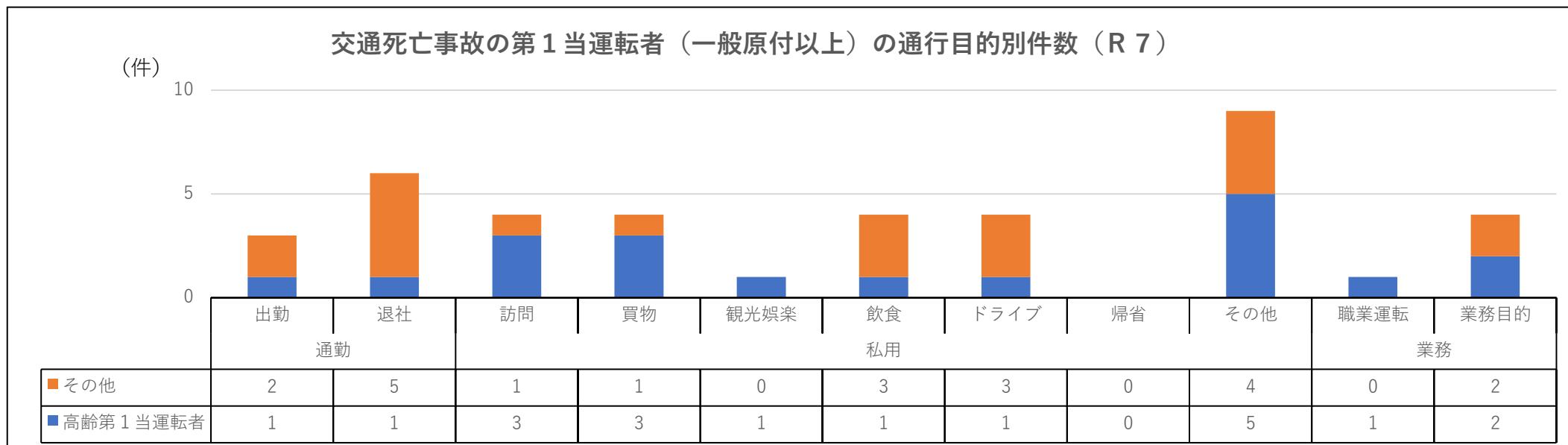


図8



9 飲酒運転事故（第1当一般原付以上）の状況について

発生件数、死者数ともに前年より減少する。（図1）

発生曜日は日曜日が最も多く、次いで土曜日が多い。（図2）

発生時間帯は2～3時台、4～5時台が最も多い。（図3）

車種別では普通乗用、軽四乗が多い。（図4）

図1

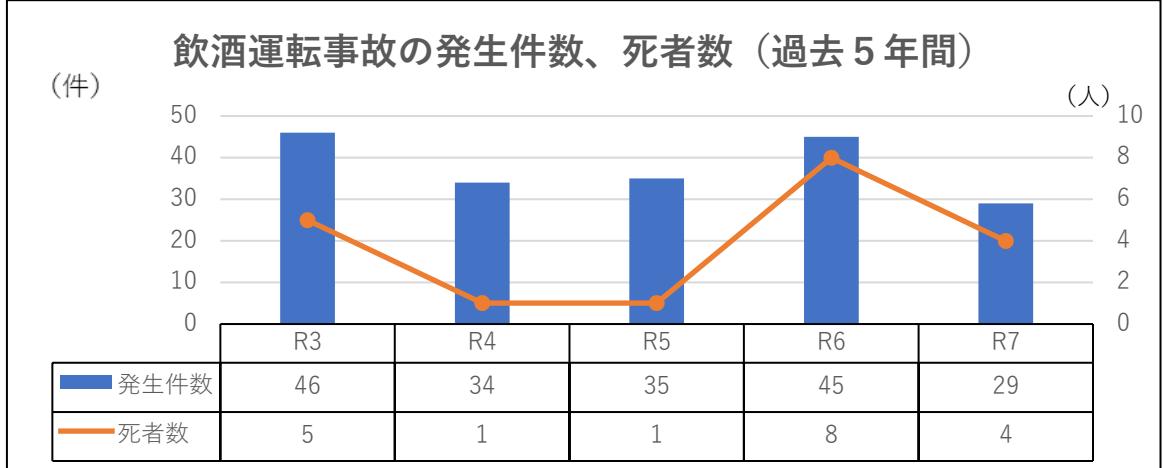


図2

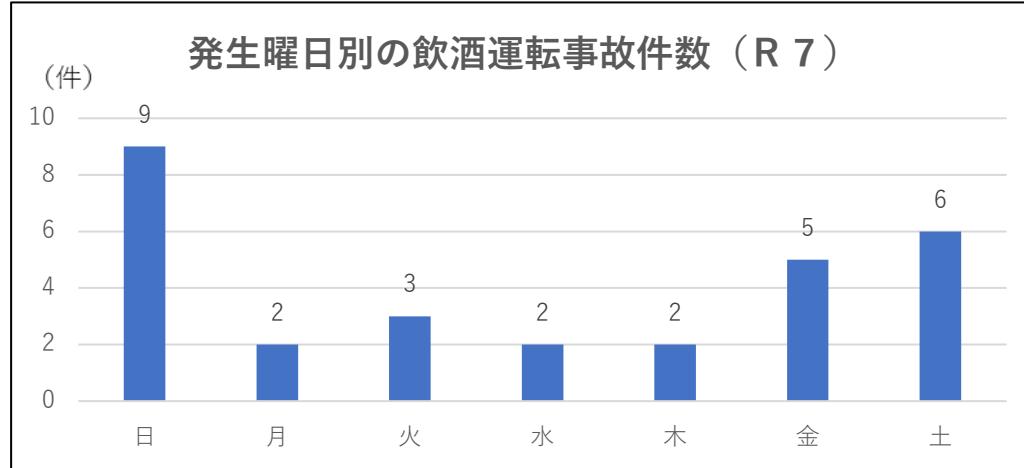


図3

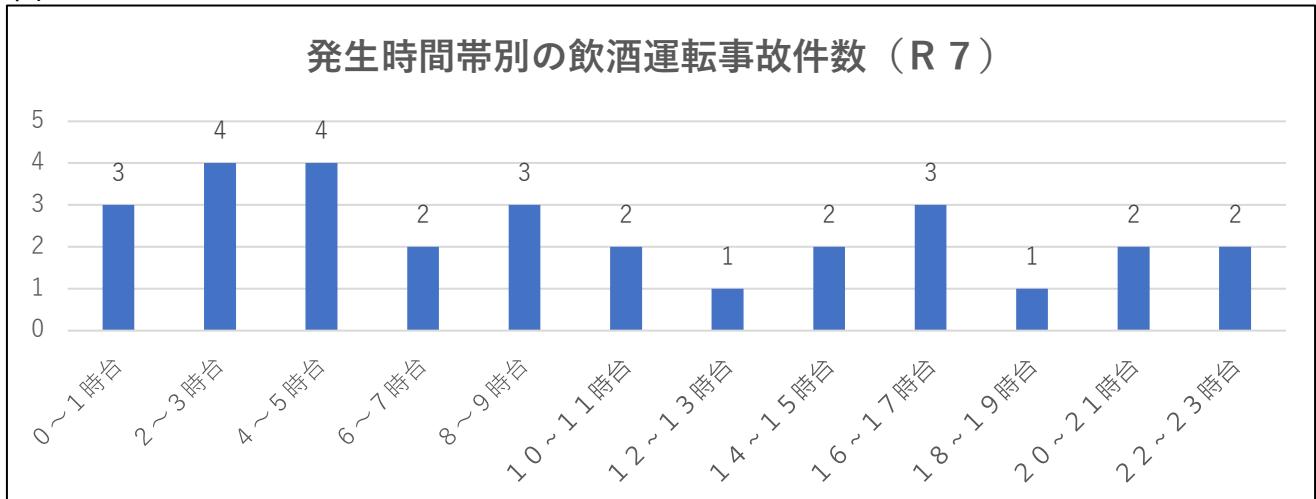
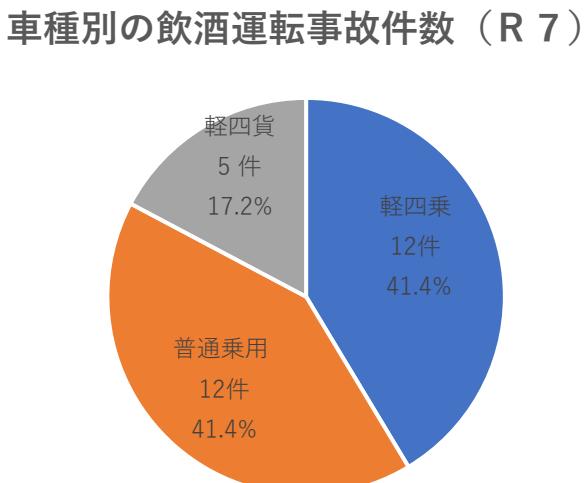


図4



10 外国人運転者事故の状況について

- 外国人運転者による交通事故の発生件数は、令和7年は前年と同数の14件である。（図1）
- 過去5年間の国籍（地域）別の外国人運転者の構成率は、中国、フィリピン、ベトナム、朝鮮・韓国、が全体の約7割（図2）
- 外免切替が22件で全体の約4割（図3）

図1

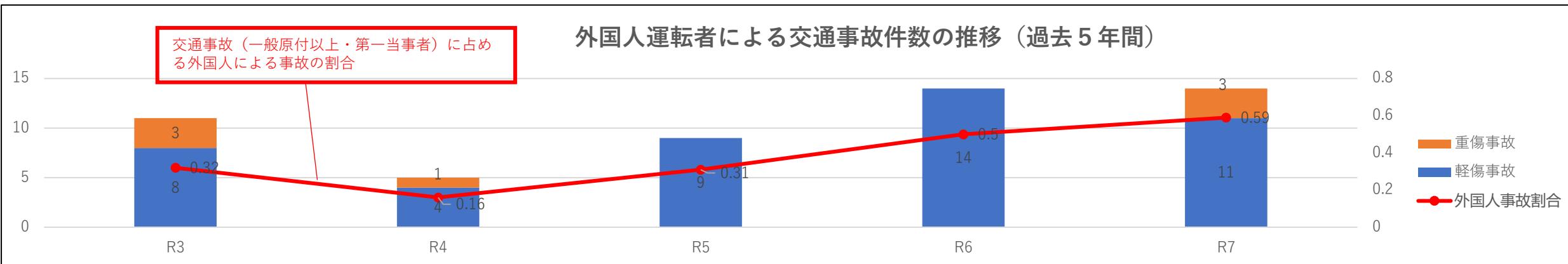


図2 国籍（地域）別外国人運転者による交通事故件数（過去5年間）

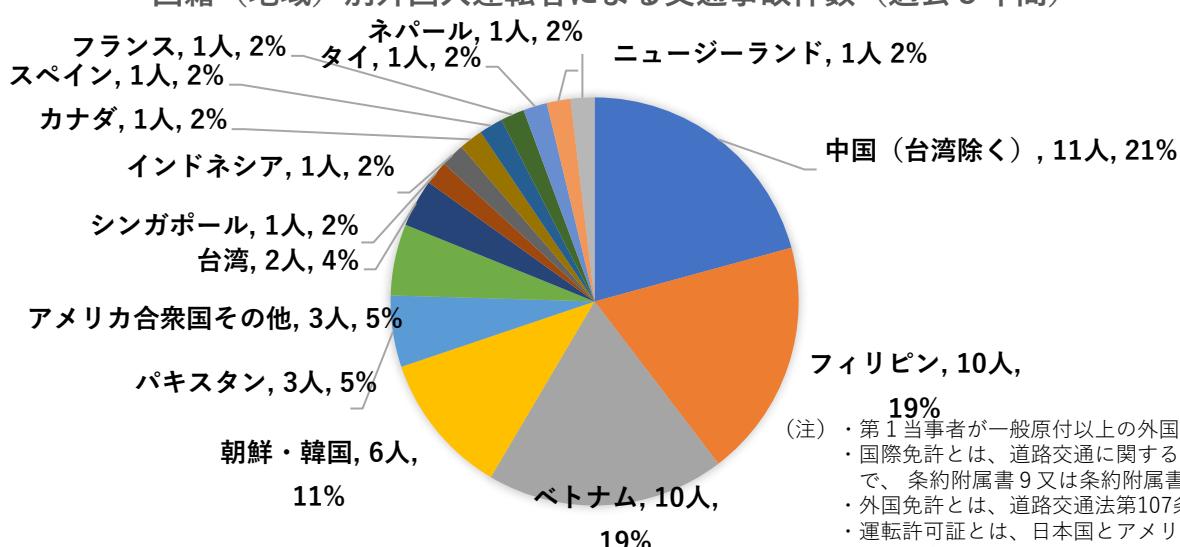
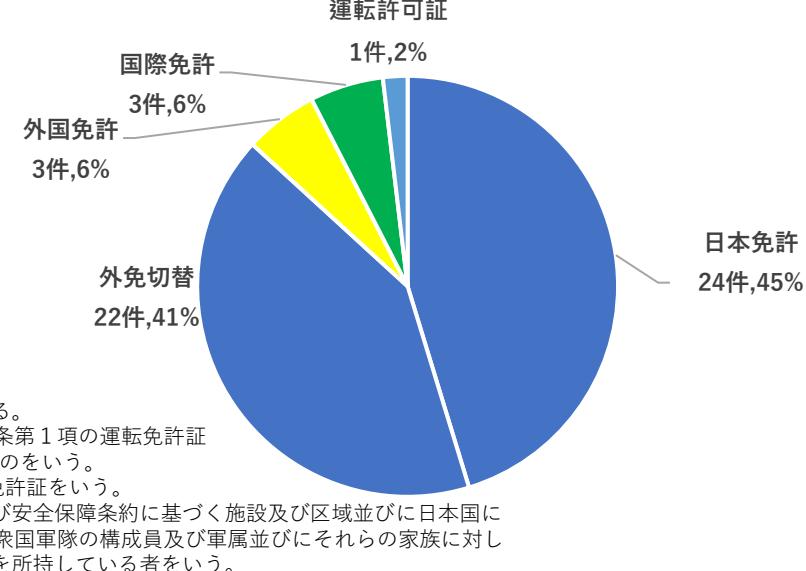


図3

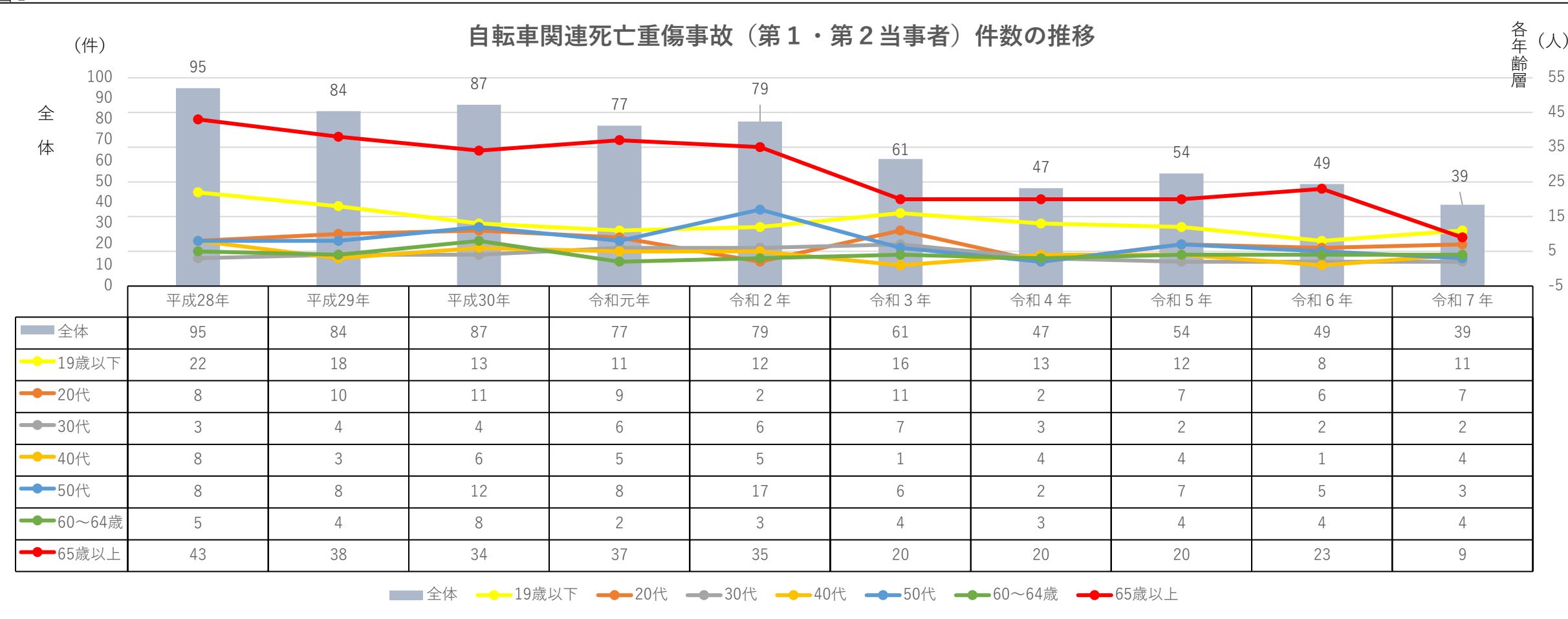
運転資格別外国人運転者による交通事故件数（過去5年間）



11 自転車関連事故の状況について

- 自転車関連死亡重傷事故件数は平成28年と比較して、令和7年は約4割に減少する。（図1）
- 年齢層は、令和6年までは65歳以上が多かったが、令和7年は19歳以下が多い。（図1）
- 死亡重傷事故に占める自転車関連死亡重傷事故件数の割合は令和7年は過去10年で2番目に少ない。（図2）
- 相手当事者別の自転車関連死亡重傷事故件数は、対自動車が約7割を占める。（図3）

図1



※ 自転車乗用者が第1当事者又は第2当事者となった事故件数であり、自転車乗用者の相互事故は1件とした。

第1当事者…最初に交通事故に関与した事故当事者のうち、最も過失の重い者をいう。

第2当事者…最初に交通事故に関与した事故当事者のうち、第1当事者以外の者をいう。

図2

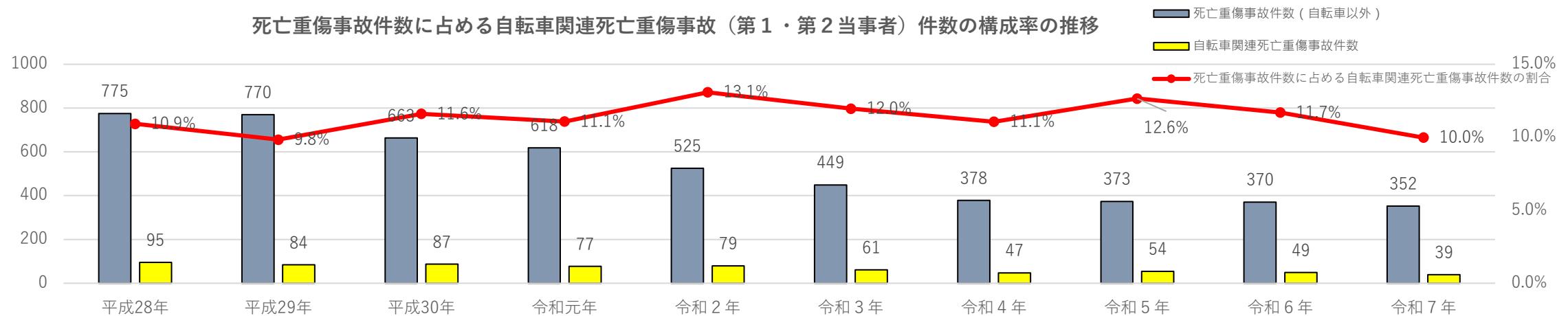
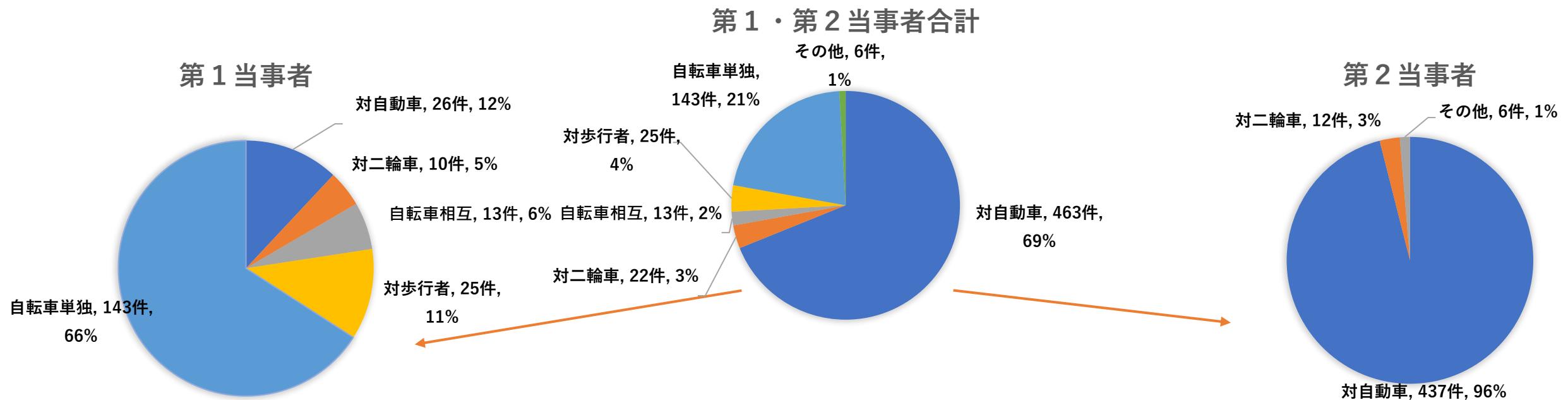


図3

相手当事者別の自転車関連死亡重傷事故（第1・第2当事者）件数（過去10年間）



※ 自転車乗用者が第1当事者又は第2当事者となった事故件数であり、自転車乗用者の相互事故は1件とし、第1当事者の件数を計上。